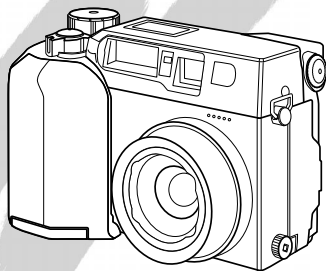
OLYMPUS®

CAMEDIA

取扱説明書

デジタルカメラ

C-3000ZOOM

■このたびは、オリンパス　デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。
■ご使用前にこの説明書をお読みください。
■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りをすることをおすすめします。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

本取扱説明書をお読みになる前に

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはオリンパスサービスステーションまでお問い合わせください。

●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。

●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。

●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCIルールの限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とは、日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

安全にお使いいただくために（つづき）

⚠ 警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - 火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠ 注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、及び容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず４本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用･放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠ 警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   - カメラの動作部でけがをする。
5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

安全にお使いいただくために（つづき）

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

ご使用の前に

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に濡れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
●本体の電気接点部には手を触れないでください。
●フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

●電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用します。
●撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。
●ニッケル水素電池はオリンパス製をお使いください。(充電器セット BU-40SNH／BU-40S／B-31S／B-30S)。繰り返し使用でき経済的です。また、低温時のご使用にも有効です。
●アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池に比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
●マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
●電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きに注意して正しく入れてください。
●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

ご使用の前に（つづき）

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

●シール（絶縁被覆）をすべて剥がしている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電（機器使用時）：０℃～４０℃

充電：０℃～４０℃

保存：－２０～３０℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

液晶画面とバックライトについて

●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

●**本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

目次

目次（つづき）

目次（つづき）

主な特長

- 高画質334万画素CCD(総画素数)で、クラス最高レベルの画像が得られます。
- 作品づくりに役立つ多彩な露出モード（プログラム、絞り優先、シャッター優先、マニュアル)。(P.33)
- 3倍ズームレンズと2.5倍デジタルズームで7.5倍ズーム相当の撮影が可能です。(P.58/129)
- 動画機能搭載。SQモードで約23秒、HQモードで約92秒のムービー録画と再生が楽しめます。(8MBカード使用時)(P.38/39)
- 音声記録対応。ムービー録画と同時音声記録ができます。静止画にも撮影時の録音やアフレコができます。(P.96/115)＊
- 広視野角TFT液晶モニタを採用。
- モードダイヤルとメニュー画面で簡単操作。(P.32/33/40/41)
- 枚数を気にせず撮影できる、リムーバブルメモリのスマートメディアを採用(パノラマ機能付)。(P.15)
- DPOF対応プリンタやDPOF対応のプリントサービスを行っているお店で自動的にプリントできるようにカードに予約ができます。(P.162/163)
- AV出力端子付で、画像のテレビ再生も楽しめます(NTSC方式)。＊＊
- USB機能搭載。パソコンとの接続にシリアル、USBどちらも利用できます (P.175～179)。
- 書き込み時間の短縮により、シャッターチャンスを逃しません。
- 専用外部フラッシュFL-40(別売)をご使用いただくと高度なフラッシュ撮影ができます (P.87)。
- 別売の機能付スマートメディアを使って合成画像も簡単に作れます。 (P.181)
- 電池駆動、軽量、コンパクトサイズで携帯性に優れています。

＊　このカメラで音声の再生はできません。テレビやパソコンに接続して再生してください。

＊＊海外では地域によりご利用になれません。

デジタルカメラを使った楽しみ方

機能付スマートメディアを使えば

オリンパスのスマートメディア(カード)を使えば、通常の記録だけでなく、下記の機能もお楽しみいただけます。

・パノラマ合成機能(P.98)

標準カード(パノラマ合成機能付)(8MB=同梱/8・16・32・64MB=別売)と別売のCAMEDIA Masterを使ってパノラマ合成画像作成

・合成テンプレート機能

テンプレートカードM-4T(4MB=別売)を使って合成画像作成

・カレンダー機能

カレンダーカードM-4C(4MB=別売)を使ってカレンダー画像作成

・手書きタイトル機能

手書きタイトルカードM-4N(4MB=別売)を使ってタイトル入り画像作成

デジタルカメラを使った楽しみ方（つづき）

パソコンに接続すると(P.173)

・別売のCAMEDIA Masterを使ってデータを加工・保存、プリントアウトしたり、パノラマ合成画像の作成ができます。なお、お手持ちのC-1KP/C-2KP/C-3KP/C-4KP/C-5KP/C-6KP/C-7KPのソフトではご使用になれません。

その他にも

・専用プリンタP-330N/P-330を使えばスマートメディアから簡単にプリントアウトできます。（P.161）
・DPOF対応プリンタ（P-330N/P-330)やDPOF対応のプリントサービスを行っているお店でプリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。
・通信アダプタT-100HS(別売)にモデムカードを組み合わせて、携帯電話から画像を伝送できます。
・コンバージョンレンズアダプタCLA-1(別売)により、コンバージョンレンズの取り付けが可能です。

CAMEDIA

1

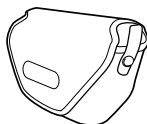
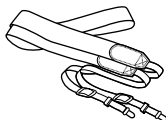
準備をしましょう

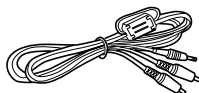
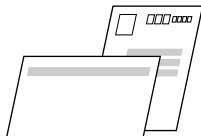
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

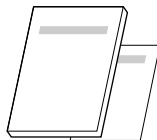
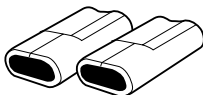
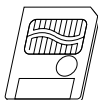
箱の中を確認します

箱の中の付属品はすべてそろっていますか。
万一、付属品が不足していたり、破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。

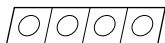
カメラ本体

カメラケース

ストラップ

リモコン

AVケーブル

保証書／ご愛用者登録はがき

レンズキャップ

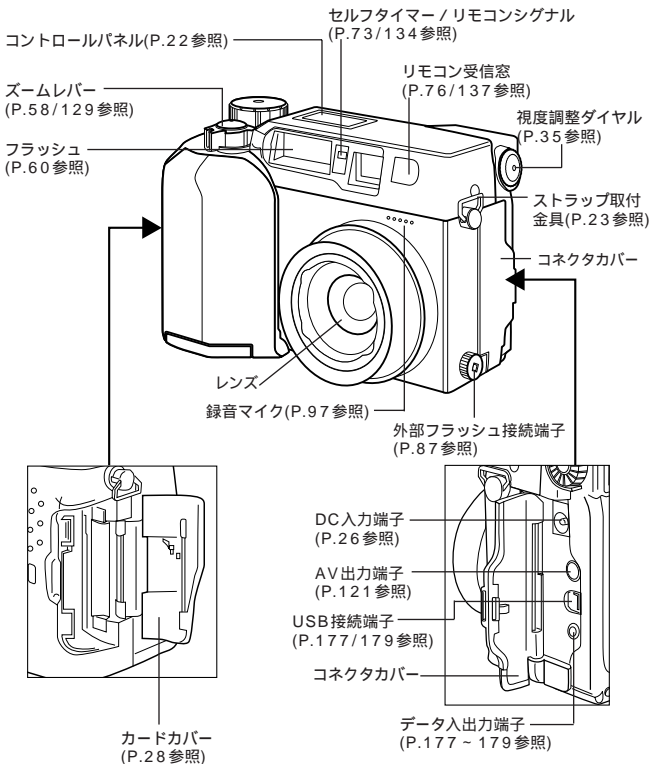
**取扱説明書（本書）/
リモコン取扱説明書**

**3Vリチウム電池パック
LB-01（2個）**

8MB スマートメディア（1枚）

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライトプロテクトシール（4枚）

スマートメディア取扱説明書

各部の名称

カメラ本体

セルフタイマー／リモコンシグナル
(P.73/134参照)
コントロールパネル(P.22参照)
リモコン受信窓
(P.76/137参照)
ズームレバー
(P.58/129参照)
視度調整ダイヤル
(P.35参照)
フラッシュ
(P.60参照)
ストラップ取付
金具(P.23参照)
コネクタカバー
レンズ
録音マイク(P.97参照)
外部フラッシュ接続端子
(P.87参照)
DC入力端子
(P.26参照)
AV出力端子
(P.121参照)
USB接続端子
(P.177/179参照)
コネクタカバー
カードカバー
(P.28参照)
データ入出力端子
(P.177～179参照)

フラッシュモード切替ボタン(P.60参照)／
消去ボタン(P.110参照)

スポット／マクロ切替ボタン
(P.64参照)／
プリントボタン(P.164参照)

十字ボタン
(P.40参照)

モードダイアル
(P.33参照)

シャッターボタン
(P.35参照)

ファインダー
(P.21参照)

ズームレバー
(P.58/129参照)

OKボタン
(P.41参照)／
MFボタン
(P.69/132参照)／
プロテクトボタン
(P.109参照)

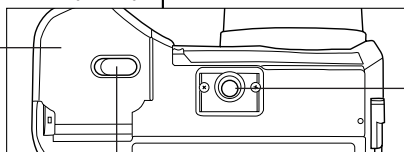
液晶モニタ
(P.22参照)

液晶モニタ
ON/OFFボタン
(P.46/124参照)

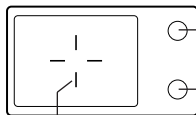
カードアクセスランプ
(P.32/35参照)

電池カバー
(P.24参照)

(底面)

メニューボタン
(P.40参照)

三脚穴

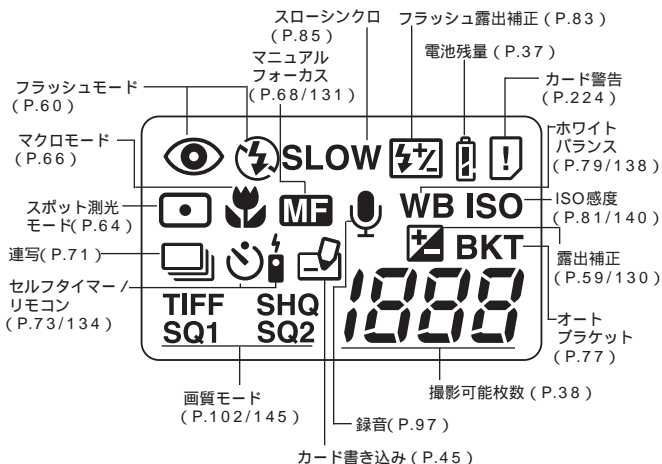
電池カバー開閉つまみ(P. 24参照)

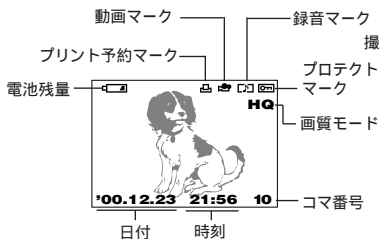
ファインダー

オートフォーカスマーク(P.44/49/127)
逆光自動補正マーク(P.61)

各部の名称(つづき)

コントロールパネル

スローシンクロ（P.85）
フラッシュ露出補正（P.83）
電池残量（P.37）
マニュアルフォーカス（P.68/131）
カード警告（P.224）
フラッシュモード（P.60）
ホワイトバランス（P.79/138）
マクロモード（P.66）
ISO感度（P.81/140）
スポット測光モード（P.64）
露出補正（P.59/130）
連写（P.71）
セルフタイマー／リモコン（P.73/134）
オートブラケット（P.77）
撮影可能枚数（P.38）
画質モード（P.102/145）
録音（P.97）
カード書き込み（P.45）

SLOW
MF
WB ISO
BKT
TIFF SHQ
SQ1 SQ2
1888

液晶モニタ

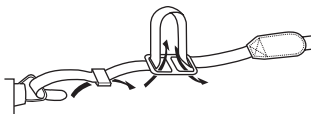
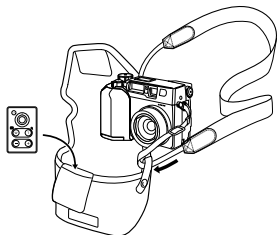
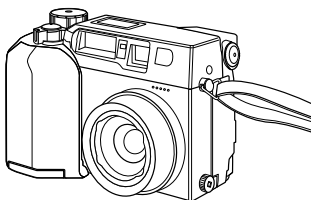
（再生時）

（撮影時）

ストラップ･カメラケースを取り付けます

カメラ本体にストラップ・カメラケースを取り付けましょう。

操作方法

1 ストラップをカメラケースに通してから、金具に通して取り付けます。

カメラケースの内袋にはリモコンが収納できます。

図の矢印に従い、ストラップを通して、引っぱって抜けないことを確認してください。

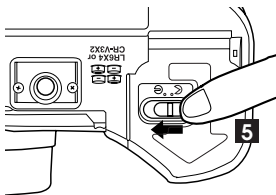
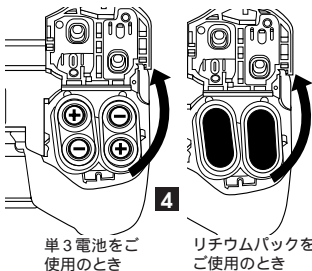
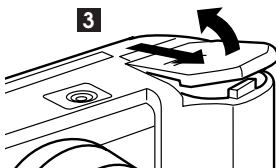
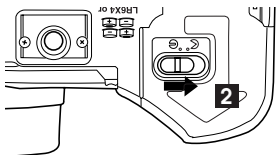
注意

- **上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。**

電池を入れます

電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

単3電池をご使用のとき

リチウムパックをご使用のとき

操作方法

1 **電源が切れている(モードダイヤルがOFFの位置にある)ことを確認します。**

2 **電池カバーの開閉つまみを ⊋ の方向へスライドさせます。**

3 **電池カバーを指の腹で、カバーに刻印された矢印の方向へスライドさせて開けます。**
爪などを使うとけがをするおそれがあります。

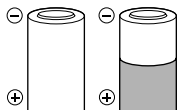
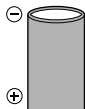
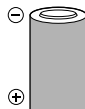
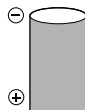
4 **図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。**
２つのリチウム電池パックは、CAMEDIAのラベルを外側にして、電池側面が窪んでいる方を向き合うようにして入れます。

5 **電池カバーを開けたままの位置で（この時点ではカバーをスライドさせない）カバーを締め切り、カバーが開かないように押さえながら、カバーを刻印の矢印と逆方向へスライドします。カバーは閉じた状態で固定されます。電池カバーの開閉つまみを、⊖ の方向へスライドしてください。フタが浮いた状態では開閉つまみが動きません。また電池カバーの端部を押すと、閉まりにくくなることがあります。**

- CR-V3（当社製LB-01)リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。
- アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、特に低温では劣化します。リチウム電池パック又はニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
- マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。(P.7参照)
- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。
- 電池を外した状態で１時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

⚠警告

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

このような形状の電池はご使用になれません

ACアダプタを使う場合（別売）

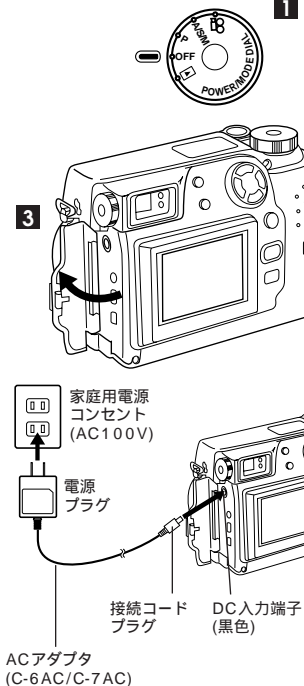
別売の専用アダプタ（C-6AC/C-7AC）を使って、家庭用電源（AC-100V）から電源を確保することができます。

操作方法

1 電源が切れている(モードダイヤルがOFFの位置にある)ことを確認します。

2 ACアダプタの電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。

3 カメラのコネクタカバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。

4 使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。

注意

- **ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。**

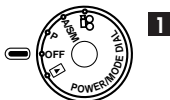
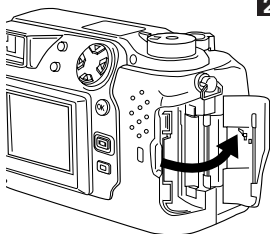
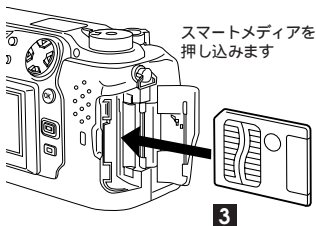
⚠警告

火災・感電・やけどのおそれがあります。

- 専用のACアダプタ（C-6AC/C-7AC）（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電源は必ずAC100Vをご使用ください。
- ACアダプタプラグの差し込みが不完全な状態で使用しないでください。
- 濡れた手でACアダプタのプラグの抜き差しは絶対にしないでください。
- 万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止してください。また、ただちに販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- ACアダプタを抜き差しする際は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの電源プラグを持って抜いてください。ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。
- 使用しないときは、必ずACアダプタをカメラ及びコンセントから外してください。
- 別売の専用アダプタ(C-6AC/C-7AC)は日本国内用です。海外ではご使用になれません。

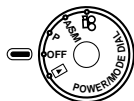
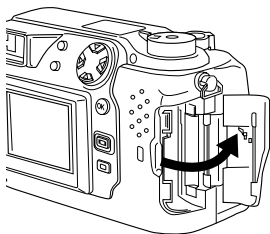
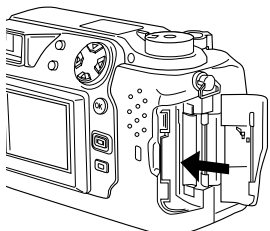
スマートメディアをセットします

付属のスマートメディアをセットします。

操作方法

1 **電源が切れている(モードダイヤルがOFFの位置にある)ことを確認します。**

2 **カードカバーを開けます。**

3 **スマートメディア(以下カードといいます)を図示の方向に押し込みます。**

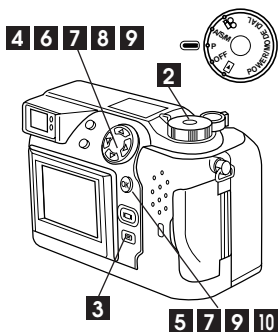
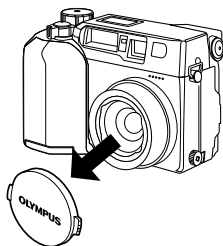
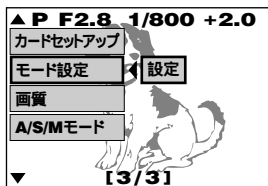
カードの向きにご注意ください。機能付スマートメディア(別売)を使用する場合も同様に押し込みます。逆向きに無理に押し込むと、抜けなくなることがあります。

4 **カードカバーを閉めます。**

カードの取り出し方

1 モードダイヤルをOFFにセットして、電源を切ってください。

2 カードカバーを開け、カードを押すと飛び出します。

取り出す場合はスマートメディアを押してください

注意
- デジタルカメラ作動中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。
- 破壊されたデータの復旧はできません。
- カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
- 市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。
- 市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合、カメラでの初期化をおすすめします。(P.119参照)

日付／時刻を設定します

カメラの日付や時刻を設定します。

液晶モニタ

(画面は静止画撮影メニューです)

操作方法

1 レンズキャップを外します。

2 モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」「▶」のどれかにセットします。

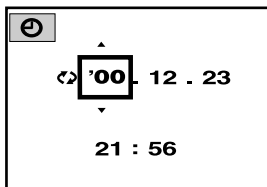
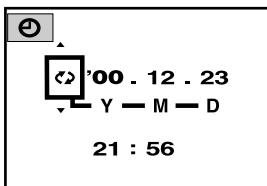
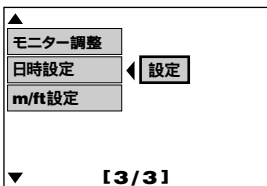
カードに画像が記録されていない時は、「▶」以外にセットしてください。

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

メニューの操作方法はp.40をご覧ください。

4 十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押します。

5 「設定」を選択してOKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。

6 十字ボタンの△▽を押して、「日時設定」を選択します。

7 **十字ボタンの ▷ を押して「設定」を選択し、OKボタンを押すと、日時設定画面が表示されます。**

8 **十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を**
DMY(日・月・年)、
MDY(月・日・年)、
YMD(年・月・日)、
の中から選択し、▷ を押して年の設定に移動します。

9 **十字ボタンの △ ▽ を押して年を設定し、▷ を押して月に移動します。同様に分まで繰り返し、OKボタンを押します。**
0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に合わせることができます。

10 **再度OKボタンを押すと設定され、また押すとメニューモードから抜けます。**

準備をしましょう

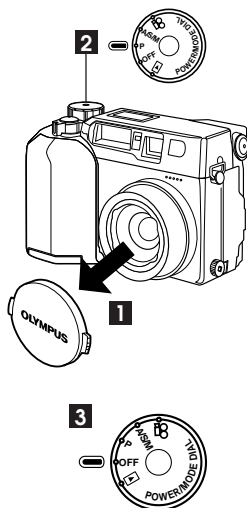
メモ

・**2000年は 00と表示されています。**

注意

・**電池を抜いた状態で約1時間放置すると設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度設定を行ってください。**
・**大切な撮影の前には、日付・時刻が正しく設定されていることをご確認ください。**
・**モードダイアルが「 ▶ 」の時は、カードに画像が記録されていないと、メニューボタンを押してもメニュー画面は表示されません。**
・**電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

基本操作をマスターします

基本操作手順

1 レンズキャップを外します。

2 モードダイヤルをセットすると、電源が入ります。

モードダイヤルを「P」「A/S/M」「 」にセットすると撮影モードとなり、レンズが前面へ移動します。コントロールパネルには電池残量と撮影可能枚数が表示されます。

モードダイヤルを「▶」にセットすると再生モードとなり、液晶モニタが点灯します。

3 使用後はモードダイヤルをOFFにセットして、電源を切ります。

レンズが収納位置に戻り、コントロールパネル及び液晶モニタが消灯します。

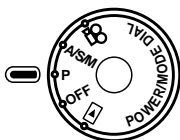
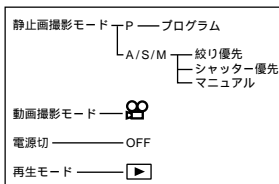
使用しないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。

注意

- **必ずレンズキャップを外してから電源を入れてください。**
- **カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。**
- **なにも操作をしないまま3分経過すると、パワーセーブ機構が働き、コントロールパネルの表示が消えます。シャッターボタン又はズームレバーを操作すると、表示が再び点灯します。なお、約4時間たつと自動的に電源が切れますが、しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。（新品電池をお使いの場合は、電池の種類によりこの時間が長くなる場合があります。）**
- **電源を切ったり電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。**

モードダイヤルの使い方

モードダイヤルには「P」(静止画プログラム撮影モード)、「A/S/M」(静止画撮影モード)、「 」(動画撮影モード)、「OFF」(電源切)、「▶」(再生モード)があり、ダイヤルを回すだけで簡単に電源の入/切やモードの切り替えができます。

静止画撮影モード ― P ― プログラム
　　　　　　　　 └ A/S/M ― 絞り優先
　　　　　　　　　　　　　 ├ シャッター優先
　　　　　　　　　　　　　 └ マニュアル
動画撮影モード ―
電源切 ― OFF
再生モード ― ▶

各モードの説明

「P」/「A/S/M」(静止画撮影モード)

モードダイヤルを「P」および「A/S/M」にセットすると、静止画撮影モードで電源が入ります。(P. 44 ～ 104参照)
「P」のプログラム撮影モードはカメラが自動的に最適な設定値を計算しますので、シャッターを押すだけできれいに画像が撮影できます。

「A/S/M」撮影モードは静止画撮影メニューから「絞り優先撮影」「シャッター優先撮影」「マニュアル撮影」が選択でき（P. 54 ～ 57参照)、お好みの設定で高度な撮影が楽しめます。

「 」(動画撮影モード)

モードダイヤルを「 」にセットすると、動画撮影モードで電源が入り、SQモードで約92秒、HQモードで約23秒の動画を撮影することができます。（8MBカード使用時）(P. 124 ～ 146参照)

「OFF」(電源切)

モードダイヤルを「OFF」にセットすると、電源が切れます。

「▶」(再生モード)

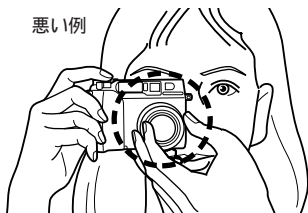
モードダイヤルを「▶」にセットすると、再生モードで電源が入り、カードに記録された画像を見ることができます。

基本操作をマスターします（つづき）

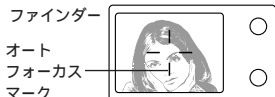
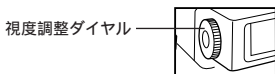
カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

よこ位置　　　　**たて位置**

悪い例

注意
- **レンズに無理な力を加えないでください。**
- **レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。**
- **縦位置の時は、フラッシュが上になるようにお持ちください。**

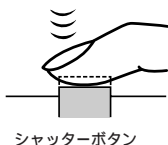
視度の合わせ方

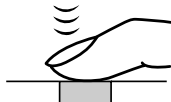
ファインダーを見やすくします。

視度調整ダイヤル

・視度調整ダイヤルをまわし、オートフォーカスマークが鮮明に見える位置に合わせます。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

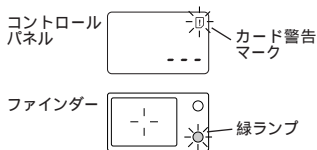
軽く押した状態（半押し）

・ピントと露出が固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。
・被写体がオートフォーカスマークから外れる時は、フォーカスロックをします。（P. 49/127参照）

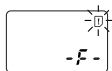
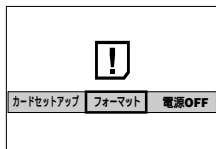
「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）

・撮影が行われピピッと音がします。
・カードへの書込中はカードアクセスランプが点滅します。

注意
・シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
・シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピント、露出が固定されていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。

基本操作をマスターします（つづき）

カードチェックについて

撮影モードで電源が入ると、カメラが自動的にカードチェックを行います。

カードが入っていない時/カードに問題がある時

コントロールパネルのカード警告マークとファインダー横の緑ランプが点滅します。

カードの初期化が必要な時

コントロールパネルのカード警告マークが点灯し、フォーマットが必要なことを知らせる画面が表示されます。フォーマットを選択すると、カードの初期化の画面になります。(P. 119参照)

電池残量について

撮影モードで電源が入ると、コントロールパネルに電池残量が表示されます。
電池残量の目安は次のように表示されます。

が点灯（自動的に消えます）。
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。

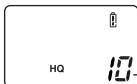
が点滅し(12秒後に消灯)、コントロールパネルの他の表示は消灯。
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

・使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。
・ニッケル水素電池をお使いの場合は、リチウム電池パックをお使いの時よりも早く電池残量警告が点滅します。

注意
・長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の電池をご用意になることをおすすめします。(P. 7/8参照)
・電池を使用して電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときに「ピピッ　ピピッ　ピピッ」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行なってください。

基本操作をマスターします（つづき）

撮影可能枚数について

静止画撮影モードで電源が入ると、コントロールパネルに撮影可能枚数が表示されます。（動画撮影モードでは、撮影可能秒数が表示されます。）

・撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「撮影可能枚数が0です」と表示されます。再度電源を入れたときも同じです。(P. 224参照)
・撮影可能枚数は設定画質モードによって変わります。
・画質モードの設定はP.102をご覧ください。

静止画撮影可能枚数（枚）　　（音声なしの画像の場合）

画質モード		記録サイズ	ファイル形式	スマートメディアの記憶容量					
				2MB	4MB	8MB	16MB	32MB	64MB
TIFF		2048×1536	TIFF	0	0	0	1	3	6
		1600×1200		0	0	1	2	5	11
		1280×960		0	1	2	4	8	17
		1024×768		0	1	3	6	13	27
		640×480		2	4	8	17	34	68
SHQ		2048×1536	JPEG	1	2	4	8	17	35
HQ		2048×1536		2	5	10	21	42	84
SQ1	高画質	1600×1200		1	3	6	12	25	51
	標準			3	7	16	31	64	128
	高画質	1280×960		2	5	10	21	42	84
	標準			5	12	24	49	99	199
SQ2	高画質	1024×768		3	6	13	26	53	107
	標準			9	18	37	76	153	306
	高画質	640×480		7	16	32	66	132	266
	標準			20	40	82	165	331	665

静止画撮影可能枚数（枚）　（音声付きの画像の場合）

画質モード		記録サイズ	ファイル形式	スマートメディアの記憶容量					
				2MB	4MB	8MB	16MB	32MB	64MB
TIFF		2048×1536	TIFF	0	0	0	1	3	6
		1600×1200		0	0	1	2	5	11
		1280×960		0	1	2	4	8	17
		1024×768		0	1	3	6	13	27
		640×480		1	4	8	16	33	66
SHQ		2048×1536	JPEG	1	2	4	8	17	34
HQ		2048×1536		2	4	10	20	40	81
SQ1	高画質	1600×1200		1	3	6	12	25	50
	標準			3	7	15	30	60	120
	高画質	1280×960		2	4	10	20	40	81
	標準			5	11	22	45	90	181
SQ2	高画質	1024×768		3	6	12	25	51	102
	標準			7	16	32	66	132	266
	高画質	640×480		6	14	28	58	117	234
	標準			15	30	61	123	248	498

・画質モードがTIFFに設定されているときは、撮影モードでの音声記録はできません。再生モードでのアフレコ(P. 115)はできます。

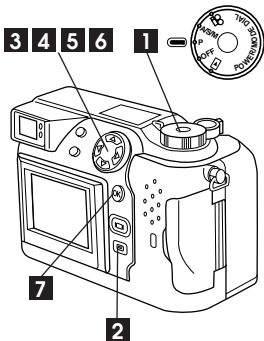
動画撮影可能秒数（秒）

画質モード	記録サイズ	スマートメディアの記憶容量			
		2MB	4MB	8MB	16MB以上
HQ	320×240	5	11	23	30
SQ	160×120	22	45	92	120

・数値は全ておおよその目安です。
・撮影毎にカウンタが減らなかったり、1コマ消去しても増えない場合があります。
・撮影対象によりデータ量が異なる為、枚数が若干増減することがあります。

基本操作をマスターします（つづき）

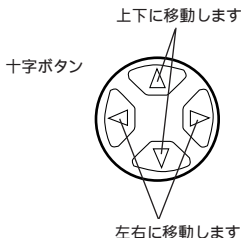
メニューの操作方法

メニューで各機能を設定します。

操作方法

1 モードダイヤルを希望のモードにセットします。

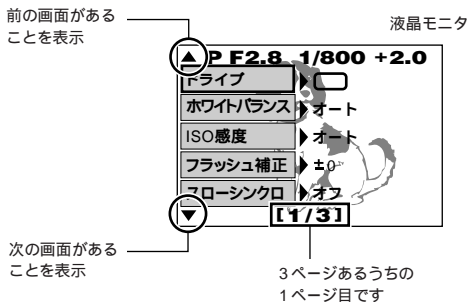
2 メニューボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
項目と現在の設定が表示されます。

3 十字ボタンの△ ▽を押して、設定したい項目を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押すと、その項目の設定内容が表示されます。

5 **十字ボタンの△ ▽ を押して、設定を選択します。**

6 **設定が終了したら、十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

7 **OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。**

注意

- **モードダイアルが「 ▶ 」の時は、カードに画像が記録されていないとメニューボタンを押してもメニュー画面は表示されません。**
- **撮影モードでは、設定後OKボタンを押さずにそのまま撮影できます。設定は再度メニューボタンを押すまで有効です。**
- **設定後OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、各設定は無効となり、メニューモードから抜けます。**
- **設定クリアをオフにすれば、電源を切っても各設定は解除されません。****(P. 190参照)**

CAMEDIA

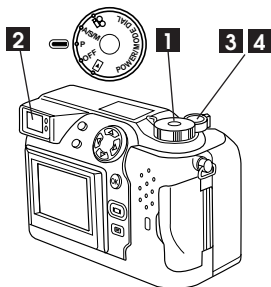
2

静止画の機能を使ってみましょう

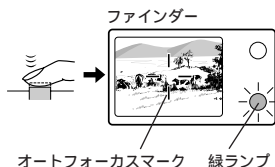
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

静止画の撮影のしかた

光学ファインダーを使った撮影のしかた

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 ファインダーをのぞき、ズームレバーを操作して、構図を決めます。(P. 58参照)

ファインダーのオートフォーカスマーク中央に被写体を入れます。またはフォーカスロックをします。(P. 49参照)

3 シャッターボタンを半押しするとピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

4 そのままシャッターボタンを押し切ります。

5 「ピピッ」と音が鳴れば撮影完了です。

カード記録が始まります。

6 ファインダー横の緑ランプの点滅が終わると、次の撮影に入れます。

緑ランプの点滅中にシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。(緑ランプの点滅時間は画質モード等により異なり、約0.5～43秒以内に終わります。)

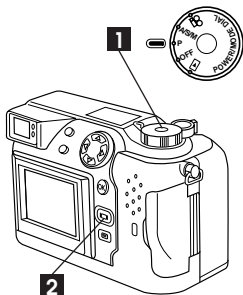
メモ

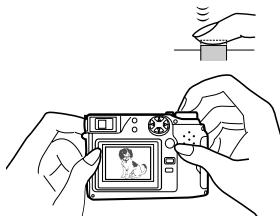
- **実際に撮影される画面と光学ファインダーで見ている画面では、被写体の距離によってずれが発生します。**

注意

- **カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。**
- **シャッターボタンを半押しして緑ランプが点滅しているときは、ピントが固定されていません。撮影距離を確認してください。****（P.53参照）**
- **ファインダー横のオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中です。消灯してからシャッターボタンを押して下さい。**
- **構図よりもやや広い範囲が撮影されます。**

静止画の撮影のしかた（つづき）

液晶モニタを使った撮影のしかた

液晶モニタ

シャッター

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 「P」の時は液晶モニタON/OFFボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。

再度ボタンを押すとモニタは消灯します。

「A/S/M」の時は自動的に液晶モニタが点灯します。

3 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

4 ファインダーを使った撮影と同じ手順で撮影してください。

- 液晶モニタのメモリゲージ1番下が点灯し、カードへの記録が始まります。
- カードに残量がある限り、記録中でもメモリゲージに空があれば続けて撮影できます。
- 2枚目以降を撮影すると、メモリゲージ中央が点灯します。
- フルタイムAFを設定していると、液晶モニタに写る画像が、いつもピントが合った状態で見えます。

5 バッファメモリに空きがなくなると、メモリゲージ1番上が点灯して次の撮影ができなくなります。再びメモリゲージに空きができると、撮影画像のモニタ表示が消え、ファインダー横の緑ランプの点滅が終わり、次の撮影に入れます。

レックビュー（P.202）をオフに設定していると、撮影画像のモニタ表示はありません。

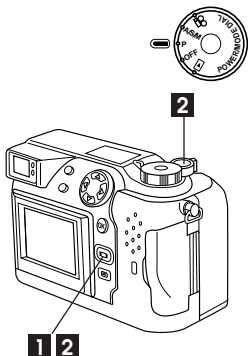
レックチェック(P.203)を設定していると、撮影画像を保存するか、消去するかの選択ができます。

注意

- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**
- **液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません(ファインダーとして利用時及び、モニタ再生時共に)。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。**
- **液晶モニタを使って撮影した場合は使わない時よりも書き込み時間が長くなります。**
- **被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。**
- **液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。**
- **晴天下のように明るい場所で撮影した時、わずかに縦スジ(スミア)が入る場合があります。液晶モニタが見にくい場合は、光学ファインダーをお使いください。**
- **液晶モニタを見ながらの撮影も可能ですが、ファインダーからのぞくほうがカメラぶれは起こりにくく、楽に撮影ができます。また、モニタをオフにした方が電池を消耗せず、より長時間の撮影が可能となります。**
- **構図よりもやや広い範囲が撮影されます。**

静止画の撮影のしかた（つづき）

確認再生

撮影した内容をすぐに見たいときに使用します。

操作方法

1 モードダイヤルが「P」または「A/S/M」の時に、液晶モニタON/OFFボタンをすばやく2回押すと、再生モードになります。（P.105～P.121参照）

2 再度液晶モニタON/OFFボタンを押すかシャッターボタンを押すと、撮影モードに戻ります。

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

ファインダー

オートフォーカスマーク

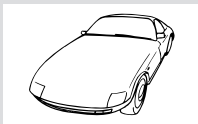
操作方法

1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
同時に露出も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に変えて押し切ります。

注意 ・シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピント、露出が固定されていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。

ピントの合いにくいもの (オートフォーカスの苦手な被写体)

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅する時があります。また、❹、❺のような被写体では、ファインダー横の緑ランプが点灯し、シャッターが切れてもピントが合っていない時があります。その場合は以下の方法または、マニュアルフォーカス(P. 68)で撮影してください。

❶コントラストのない被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 49)した後、構図を決めて撮影してください。

❷縦線のない被写体

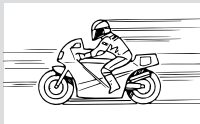
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 49)した後、構図を横にもどして撮影してください。

❸画面中央に極端に明るいものがある被写体

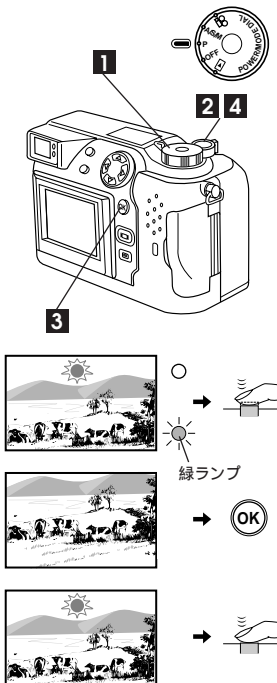
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 49)した後、構図を決めて撮影してください。

❹遠いものと近いものが混在する被写体

オートフォーカスして緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 49)してから構図を決めて撮影してください。

❺動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 49)してから、構図を決めて撮影してください。

AEロック

シャッターボタンでフォーカスロックをした時の露出とは異なる構図での露出で、撮影したい時に使用します。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 ファインダーをのぞき撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

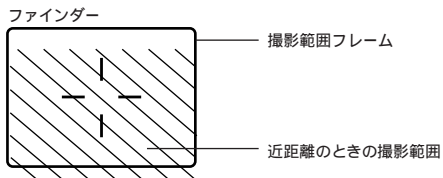
3 シャッターボタンを半押ししたままで、露出を合わせたい構図に変えてOKボタンを押します。
この時の構図で測光した露出が記憶されます。
構図を変えて再度OKボタンを押すと新しい露出が記憶されます。

4 再び撮影したい構図に変えてシャッターボタンを押し切ります。
シャッターボタンをはなすと、最初に合わせたピントも記憶された露出も解除されます。

注意
- **レリーズボタンの半押しを解除するとOKボタンを押して露出を記憶した後でも露出は消去されます。**
- **撮影する時の被写体の距離がはじめにレリーズボタンを半押ししてピントを合わせた時と変わると、ピントの合っていない写真がとれます。**

静止画の機能を使ってみましょう【撮影機能】

撮影距離

ファインダーの撮影範囲フレームは∞（無限遠）時に写る範囲ですが、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が下に移動します。(ズームを望遠側へ回すと移動量は大きくなります。)

撮影は 0.2 m ～ ∞ (無限遠）の範囲で行ってください。

・0.2 mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。

・近距離での撮影は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。撮影する絵がモニタに表示されますので、撮影が容易にできます。

・液晶モニタを使用すると電池消耗が早くなります。

撮影距離

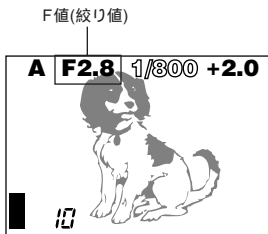
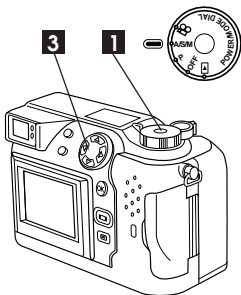
マクロモード	0.2 m ～ 0.8 m (P. 66参照)
通常モード	0.8 m ～ ∞

絞り優先撮影

絞り値を自分で設定できます。背景を生かした記念撮影には値を大きくし、背景をぼかしたポートレート撮影には値を小さくして、背景の描写に変化をつけることができます。

F値(絞り値)

A F2.8 1/800 +2.0

10

操作方法

1 モードダイヤルを「A/S/M」にセットします。

液晶モニタが自動的に点灯し、上部に絞り値が表示されます。

2 メニュー画面でA/S/Mモードを「A(絞り優先撮影モード)」に設定します。

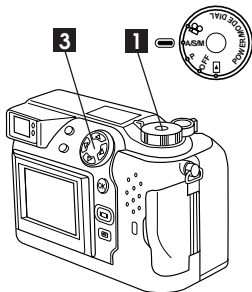
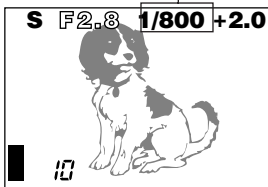
撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 104)をご覧ください。

3 十字ボタンの △ を押すとF値(絞り値)が大きくなり、 ▽ を押すと小さくなります。液晶モニタの表示を見ながら選択してください。

注意
- **フラッシュが自動的に発光する設定の時は、シャッター速度は1/30秒よりも低速にはなりません。**
- **設定値で適正露出が得られない時は、液晶モニタの表示が赤く点滅します。露出がオーバーになる時は上向きの三角が、露出がアンダーになる時は下向きの三角が表示されます。**
- **「絞り優先撮影モード」の時にお使いいただけます。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定できます。動体を止めて写したい時には高速で、動体の軌跡を残したい時には低速で撮影します。

操作方法

1 モードダイヤルを「A/S/M」にセットします。

液晶モニタが自動的に点灯し、上部にシャッター速度が表示されます。

2 メニュー画面でA/S/Mモードを「S(シャッター優先撮影モード)」に設定します。

撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 104)をご覧ください。

3 十字ボタンの △ を押すと高速に、▽ を押すと低速になります。液晶モニタの表示を見ながら選択してください。

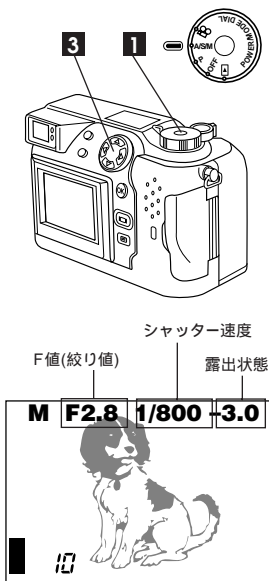
シャッター優先撮影（つづき）

モードダイアルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は自動的に１００に設定されます。ISO感度は１００・２００・４００から選択できます。(P.８１）シャッター速度範囲は、ISO設定によって変わりません。

シャッター速度選択範囲：１～1/８００（秒）

- 設定値で適正露出が得られない時は、液晶モニタの表示が点滅します。露出がオーバーになる時は上向きの三角が、露出がアンダーになる時は下向きの三角が表示されます。
- 「シャッター優先撮影モード」の時にお使いいただけます。
- 設定クリア(P．１９０)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定できます。背景の描写に変化をつけたり、被写体の動きをあらわすことができます。

操作方法

1 モードダイヤルを「A/S/M」にセットします。

液晶モニタが自動的に点灯し、上部に絞り値とシャッター速度が表示されます。

2 メニュー画面でA/S/Mモードを「M(マニュアル撮影モード)」に設定します。

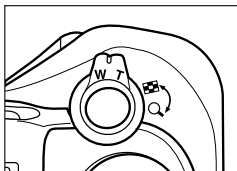
撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 104)をご覧ください。

3 F値(絞り値)は、十字ボタンの ◁ を押すと大きくなり、▷ を押すと小さくなります。シャッター速度は、十字ボタンの △ を押すと高速に、▽ を押すと低速になります。液晶モニタの表示を見ながら選択してください。

シャッター速度は16～1/800秒で選択できます。

注意
- 画面右上に設定したF値、シャッター速度での露出状態が、ー3.0 ～ ＋3.0EVの範囲で表示されます。
- 露出がー3.0EVよりもアンダー、または+3.0EVよりオーバーのときは、表示が赤くなります。
- 「マニュアル撮影モード」の時にお使いいただけます。
- 設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

ズーム

3倍ズームで望遠や広角撮影ができます。

ズームレバーを T 側へ回すと望遠になります。

ズームレバーを W 側へ回すと広角になります。

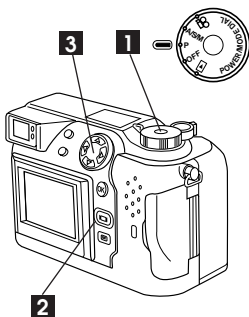
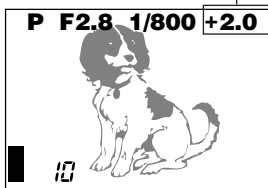
- **2.5倍デジタルズームモードと組み合わせると、7.5倍ズーム相当の撮影が可能です。(P.93参照)**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

露出補正

露出は撮影時に自動的にセットされますが、+/－２段の範囲で約1/3段刻みの補正が可能です。
白の多い被写体には+の、黒の多い被写体には－の補正を入れると効果的です。

露出補正

P F2.8 1/800 +2.0

10

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

「A/S/M」の時は、「絞り優先撮影モード」又は「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。(P. 104参照)

2 「P」の時は、液晶モニタONにします。

「A/S/M」の時は自動的に液晶モニタが点灯します。
上部に露出補正値が表示されます。

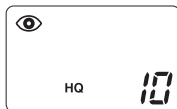
3 十字ボタンの ▷ を押すと（+）に、◁ を押すと（－）に補正されます。

0以外の設定をすると、コントロールパネルに ☒ が表示されます。

注意

- **「プログラム撮影モード」、「絞り優先撮影モード」又は「シャッター優先撮影モード」の時にお使いいただけます。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **露出補正をすると液晶モニタの明るさも変わりますが、うす暗い被写体では変化しにくくなります。その時は撮影画像を再生してご確認ください。**
- **フラッシュ撮影時は狙いどおりの補正ができない場合があります。**

フラッシュ撮影

フラッシュが必要なときには、シャッターボタンを半押しするとファインダー横のオレンジランプが点灯します。撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。

オート発光以外を選択すると、フラッシュモードがコントロールパネルに表示されます。

フラッシュモード切替ボタンを押すたびに、以下のフラッシュモードに切り替わります。

設定項目	機能・目的
オート発光(P.61)表示なし	暗い時や逆光の時、自動的に発光します。
赤目軽減発光（P.61）	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。
強制発光（P.62）	必ず発光させたい時に。
発光禁止（P.62）	暗いところでも発光させたくない時に。

フラッシュ撮影可能範囲

広角時：約0.8 ～ 3.8m　　望遠時：約0.2 ～ 3.8 m

メモ
- **被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することができます（P.83）。**

注意
- **オレンジランプが点滅している時は、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消灯してから撮影してください。**
- **マクロ撮影時、特にズームが広角の時は、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがありますので、ご注意ください。撮影後は必ず液晶モニタで再生して確認して下さい。**
- **外部フラッシュの使用方法は、P.87をご覧下さい。**
- **連写モード（P.71）ではご使用になれません。**

オート発光

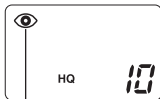
暗い時や逆光の時、フラッシュが自動的に発光します。

ファインダー

逆光自動補正マーク

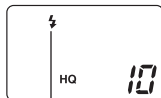
逆光の被写体を撮影するときは、被写体を逆光自動補正マークに合わせて撮影してください。

赤目軽減発光

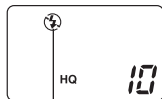
目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

注意
- **シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。**
- **フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。**

フラッシュ撮影（つづき）

強制発光

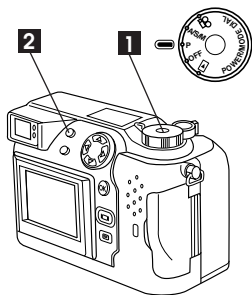
必ず発光させたいときに。
強制発光モードはフラッシュを常に発光させるモードです。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注意 ・フラッシュ撮影可能範囲(P.60)内で撮影してください。
・非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。
このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影するときに使います。

フラッシュ発光禁止マーク

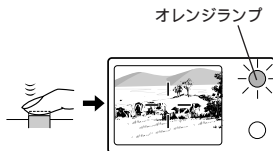
注意 ・シャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。

フラッシュの使い方

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

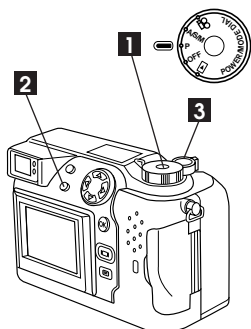
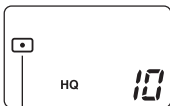
2 フラッシュモード切替ボタンを押すたびに、
オート発光から
赤目軽減発光(◉)、
強制発光(ϟ)、
発光禁止(⊘)
へと切り替わります。

オート発光以外はコントロールパネルに各フラッシュモードが表示されます。

3 シャッターボタンを半押しした時にファインダー横のオレンジランプが点灯していれば、フラッシュが発光します。

注意 **・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

スポット測光モード

撮影する被写体の明るさを測って撮影します。
このカメラではデジタルESP測光とスポット測光の2種類の測光方法があり、あらかじめデジタルESP測光の測光方法に設定されています。
デジタルESP測光では構図の中央部と周辺部を別々に測光し、最適な露出を選択します。
スポット測光では中央部のみを測光するため、逆光などで被写体が暗くなる時に背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。
スポット／マクロ切替ボタンを押すたびに、以下のモードに切り替わります。

設定項目	機能・目的
標準 ↓	デジタルESP測光・ 通常オートフォーカス。
スポット測光モード ↓	中央部のみを測光します。
マクロモード ↓	接写の時に。(P. 66参照)
マクロ＋スポット測光モード	接写時のスポット測光。 (P. 67参照)

スポット測光マーク

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

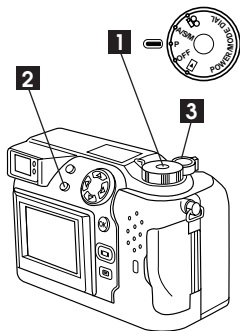
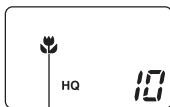
2 コントロールパネルを見ながらスポット/マクロ切替ボタンを押して、「 (スポット測光モード)」を選択します。

スポット測光モードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまで数回スポット/マクロ切替ボタンを押します。

3 撮影します。

注意　**・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

マクロモード

近くにあるものを撮影するときに使います。
被写体に20cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影することができます。

コントロールパネル

マクロモード

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 コントロールパネルを見ながらスポット/マクロ切替ボタンを押して行き、「 (マクロモード)」を選択します。

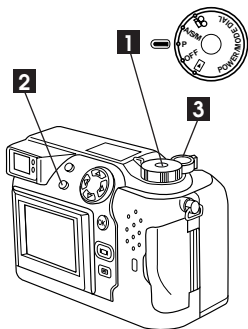
マクロモードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまで数回スポット/マクロ切替ボタンを押します。

3 撮影します。

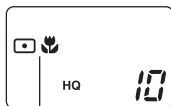
撮影距離
約0.2 ～ 0.8 m

注意
- **フラッシュ使用時には影が目立つ場合があります。**
- **マクロモード時は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

マクロ＋スポット測光モード

被写体がマクロ撮影範囲内にある時、背景が明るい場合も適正露出で撮影できます。

コントロールパネル

マクロ＋スポット測光マーク

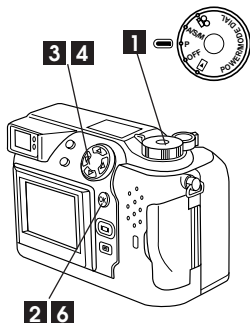
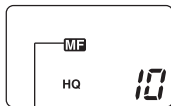
操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 コントロールパネルを見ながらスポット/マクロ切替ボタンを押して行き、「 (マクロ＋スポット測光モード)」を選択します。
マクロ＋スポット測光モードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまでスポット/マクロ切替ボタンを押します。

3 撮影します。

注意 ・**設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

マニュアルフォーカス

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ選択できます。オートフォーカスの合いにくい被写体でも、液晶モニタを見ながらピントを合わせることができます。

コントロールパネル

マニュアルフォーカス

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 OKボタンを押すと、液晶モニタにフォーカスモードの選択画面が表示されます。

3 十字ボタンの ▷ を押して「MF」を選択すると、コントロールパネルに「 MF 」が表示され、液晶モニタの距離表示のカーソルがアクティブになります。

キャンセルする場合は十字ボタンの ◁ を押して「AF」を選択し、コントロールパネルの「 MF 」が消えたら、OKボタンを押します。

4 液晶モニタを見ながら十字ボタンの △ ▽ を押してカーソルを移動させ、距離を選択します。

操作中はモニタ表示が拡大されるので、ピントの確認が容易にできます。

5 **0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に20cm～80cmの目盛りに切り替わります。**

6 **OKボタンを押すと、設定が保存されて赤字で表示されます。**

注意

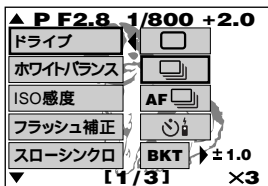
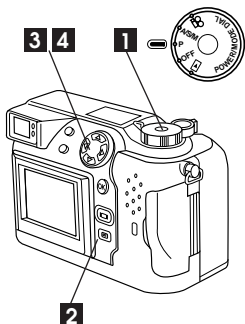
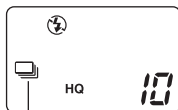
- **マニュアルフォーカスを設定後にズーム操作を行うと、ピントが若干ずれることがあります。この場合は再度十字ボタンを押してピントを合わせてください。**
- **フラッシュ使用時は、フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。**
- **設定クリア(P．190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **液晶モニタの距離表示はあくまでも目安です。**

静止画撮影メニュー

モードダイヤルが「P」又は「A/S/M」にセットしてある時にメニューボタンを押すと、液晶モニタに静止画撮影メニューが表示され、以下の設定ができます。（P.40参照）

液晶表示	機能・目的
ドライブ	連写モード (P. 71)、セルフタイマー/リモコン (P. 73)、オートブラケット(P. 77) 使用時に。
ホワイトバランス	光源に合わせてホワイトバランスを設定。(P. 79)
ISO感度	ISO感度を設定。(P. 81)
フラッシュ補正	フラッシュの発光量補正に。(P. 83)
スローシンクロ	夜景撮影時に。(P. 85)
フラッシュ選択	内部フラッシュと外部フラッシュの選択に。(P.89)
デジタルズーム	2.5Xデジタル望遠撮影。(P. 93)
ファンクション撮影	エフェクト撮影時に。(P. 95)
録音モード	静止画撮影モードでの録音設定に。(P.96)
機能カード	カード機能使用時に。(P. 98)
カードセットアップ	初期化時に。(P. 100)
モード設定	設定クリア (P. 190)、シャープネス (P. 194)、TIFFの設定 (P. 195)、SQ設定 (P. 197)、ビープ音 (P. 199)、フルタイムAF(P. 200)、レックビュー (P.202)、ファイル名メモリー (P. 208)、液晶モニタの明るさ設定 (P. 211)、日時設定 (P.30)、長さ単位設定 (P. 213)。
画質	画質モードの設定。(P. 102)
A/S/Mモード	静止画撮影モード「A」「S」「M」の設定。(P. 104)

連写モード

連続撮影したい時に使います。

コントロールパネル

連写マーク

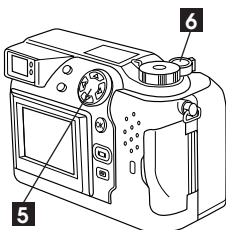
操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ドライブ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「□ (連写)」か「AF□ (AF連写)」を選択します。

コントロールパネルに「□」が表示されます。
「□ (連写)」を選択すると、1コマ目にピント・露出・ホワイトバランスが決定されます。
「AF□ (AF連写)」を選択すると、1コマ毎にピント・露出・ホワイトバランスが測定されます。

静止画の機能を使ってみましょう【撮影機能】

連写モード（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

連写速度、連続撮影が可能な枚数は画質モードの設定により異なります。以下の表を参考にしてください。

連続撮影可能枚数

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">画質モード</th><th></th><th>連続撮影枚数</th><th>連写速度</th></tr>
<tr><th>記録サイズ</th><th>(枚)</th><th>(約 コマ/秒)</th></tr>
<tr><td colspan="2">TIFF</td><td>全て</td><td colspan="2">使用できません</td></tr>
<tr><td colspan="2">SHQ</td><td>2048×1536</td><td colspan="2">使用できません</td></tr>
<tr><td colspan="2">HQ</td><td>2048×1536</td><td>5</td><td rowspan="11">1.2
〜
1.8</td></tr>
<tr><td rowspan="4">SQ1</td><td>高画質</td><td rowspan="2">1600×1200</td><td>3</td></tr>
<tr><td>標準</td><td>7</td></tr>
<tr><td>高画質</td><td rowspan="2">1280×960</td><td>5</td></tr>
<tr><td>標準</td><td>11</td></tr>
<tr><td rowspan="4">SQ2</td><td>高画質</td><td rowspan="2">1024×768</td><td>6</td></tr>
<tr><td>標準</td><td>18</td></tr>
<tr><td>高画質</td><td rowspan="2">640×480</td><td>15</td></tr>
<tr><td>標準</td><td>38</td></tr>
</table>

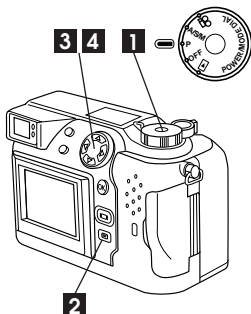
数値は液晶モニターがOFFの状態で撮影した場合の参考値です。

注意

- **連写モードでは、内部フラッシュはご使用になれません。（自動的に発光禁止になります。）**
- **外部フラッシュ使用時は、連写速度に追従できる設定をおすすめします。**
- **TIFF、SHQ以外の画質モードでご使用いただけます。**
- **連写撮影後、連写モードを切り換えても、カード記録が終了するまで次の撮影はできません。**
- **シャッタースピードはカメラぶれを抑えるため最長1／30秒に設定されているため、暗い被写体では通常より暗く写る場合があります。**
- **シャッターボタンを押している間、連写ができます。シャッターボタンをはなすと、連写が止まります。**
- **連写撮影中は、液晶モニタの表示はありません。光学ファインダを使って撮影してください。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **AF連写では、連写速度が遅くなります。**

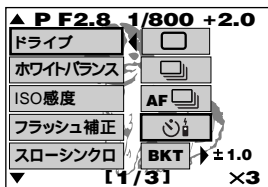
セルフタイマー／リモコン

セルフタイマーやリモコンを使って撮影ができます。記念写真などを撮影する時に便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

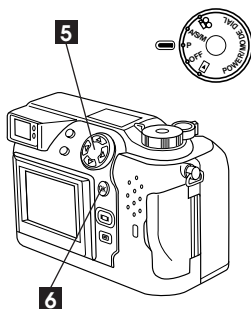
操作方法

1 **モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「ドライブ」を選択します。**

4 **十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「 」を選択します。**
コントロールパネルに「 」が表示されます。

コントロールパネル

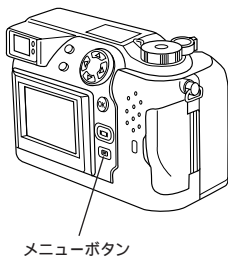
セルフタイマー／リモコン

セルフタイマー／リモコン（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。
OKボタンを押さずに撮影する事もできます。（P. 75/76参照）

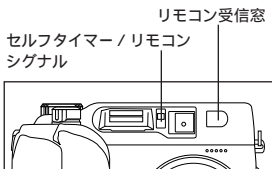
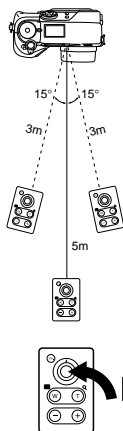
注意 ・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されませんが、セルフタイマーを使った撮影後は解除されます。

セルフタイマーを使った撮影のしかた

シャッターボタンを押すと、カメラ前面のセルフタイマー／リモコンシグナルが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後にシャッターが切れます。

作動中のセルフタイマーを途中で止めるには、メニューボタンを押します。

注意 ・セルフタイマーで撮影後、セルフタイマー／リモコンモードは解除されます。

セルフタイマー／リモコン（つづき）

リモコンを使った撮影のしかた

操作方法

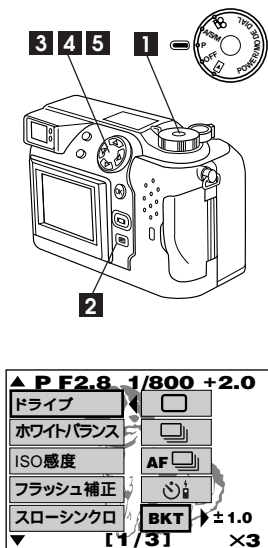
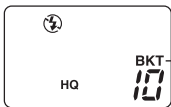
1. **リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのW又はTボタンを押し、構図を決めます。**
   カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅します。

2. **リモコンのシャッターボタンを押すと、カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅し、約3秒後にシャッターが切れます。**
   シャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅しない場合は、カメラに近づいて再度シャッターボタンを押します。(電波が混信している時はシグナルが点滅しないので、リモコンの取扱説明書に従ってチャンネルを変えてください。)

メモ
- **リモコンを使った再生のしかたは、P. 121をご覧ください。**

注意
- **撮影時リモコンに設定後、約3分間操作しないとリモコン設定が解除されます。**
- **太陽下など明るい環境では、リモコン電波の到達距離が短くなります。**
- **リモコン受信窓に強い光をあてないでください。**
- **撮影後もセルフタイマー／リモコンモードは解除されません。**

オートブラケット

露出を変えて、設定枚数分を連続撮影します。再生モードで、必要な画像のみを残したり適正な露出条件を知ることができます。

オートブラケット

操作方法

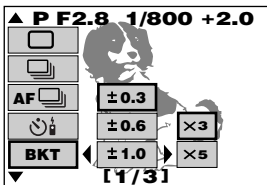
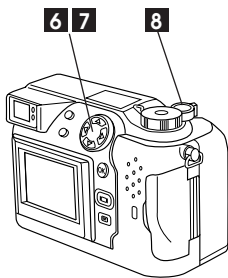
1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。
「A/S/M]の時は、「絞り優先撮影モード」又は「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。（P. 104参照）

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ドライブ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「BKT」を選択します。
コントロールパネルに「BKT」が表示されます。

5 さらに十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、露出のステップを選択します。

オートブラケット（つづき）

6 さらに十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、撮影枚数を選択します。

・設定されている画質モードによっては、[X3]のみしか選択できないものがあります。

7 十字ボタンの ◁ を押して行き、設定を確認します。

8 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

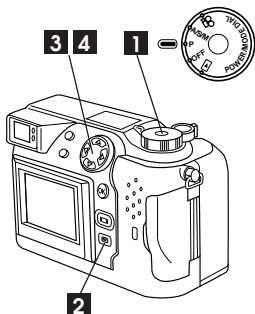
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意

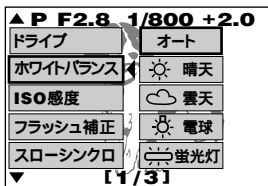
- **ピントとホワイトバランスは1コマ目に決定されます。**
- **「プログラム撮影モード」、「絞り優先撮影モード」または「シャッター優先撮影モード」のときにお使いいただけます。**
- **TIFF、SHQ以外の画質モードでお使いいただけます。**
- **シャッターボタンから指をはなすと撮影は終了します。**
- **設定枚数以上の空きがバッファにないと、次の撮影はできません。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

ホワイトバランス

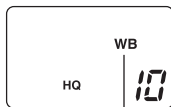
オートでは思い通りの仕上がりになりにくい光源のときなどは、各モードを選ぶ事により、より良い仕上がりになります。

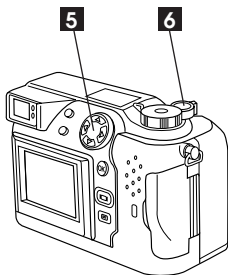
操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ホワイトバランス」を選択します。

4 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、
「オート」、
「☼ (晴天)」、
「☁ (曇天)」、
「電球マーク (電球)」、
「蛍光灯マーク (蛍光灯)」
の中から選択します。

オート以外の設定をすると、コントロールパネルに「**WB**」が表示されます。

コントロールパネル

マニュアルホワイトバランスマーク

ホワイトバランス（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

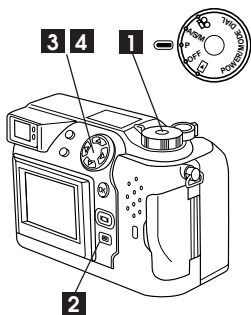
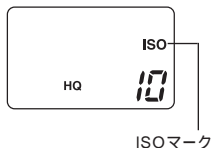
注意

- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **特殊な光源下では対応できない場合があります。**
- **設定クリア(P.190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **色の確認は必ず液晶モニタで画像を再生して行ってください。**

ISO感度の設定

感度をオート、約100固定、約200固定 (約2倍感度アップ)、約400固定 (約4倍感度アップ)の中から選択できます。
感度が高くなるほど、速いシャッタースピード及び低照度下での撮影が可能になります。

コントロールパネル

ISOマーク

操作方法

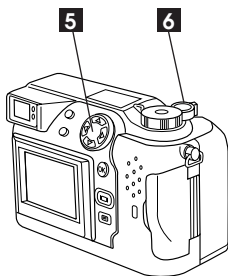
1 モードダイヤルを「P」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ISO感度」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、ISO感度を選択します。

オート以外を選択すると、コントロールパネルに「ISO」が表示されます。

ISO感度の設定（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

「A/S/M」モードのときは、「100」、「200」、「400」から選択できます。

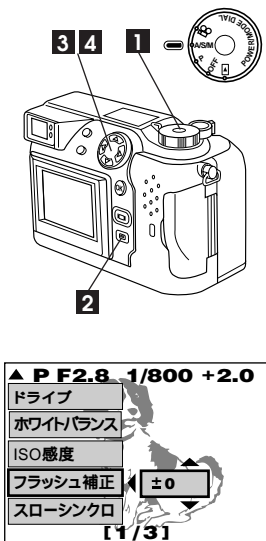
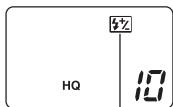
- 感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- 「オート」を選択している時にモードダイヤルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は100に設定されます。
- オートを選択した時、暗い所でフラッシュ不使用の場合は、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。
- 感度を上げると画像にノイズが増えます。
- 設定クリア(P.190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量の補正をします。

コントロールパネル

HQ

10

フラッシュ露出補正

操作方法

1 モードダイヤルを「P 」または「A/S/M 」にセットします。

「A/S/M 」の時は、「絞り優先撮影モード」又は「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。（P.104参照）

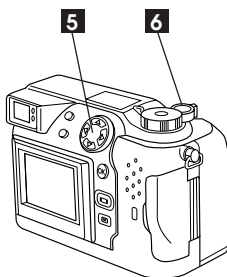
2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「フラッシュ補正」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、フラッシュの露出補正量を設定します。

コントロールパネルに「 」が表示されます。

△ を押すごとに1/3EV ステップで＋補正、▽ を押すごとに1/3EV ステップでー補正されます。±2EV の範囲で補正できます。

フラッシュ補正（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して行き、設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

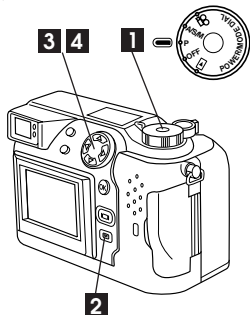
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意

- **専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、両方同時にフラッシュの発光量を補正します。**
- **専用外部フラッシュで「MANUAL」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、内蔵フラッシュの発光量のみ補正します。**
- **シャッタースピードが速い場合はフラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。**

スローシンクロ

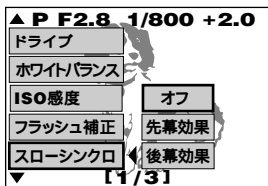
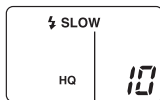
スローシャッターで周囲の状況を捉え、最初又は最後にフラッシュを発光させる撮影方法です。夜間撮影に便利です。
「先幕効果」を選択すると、撮影の最初にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、ヘッドライトの光が走行方向に流れて撮影されます。
「後幕効果」を選択すると、撮影の最後にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、テールランプの光が尾を引いて撮影されます。

コントロールパネル

スローシンクロモード

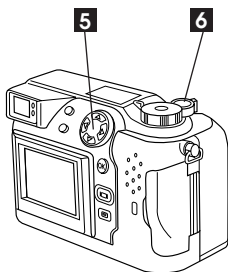
操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「スローシンクロ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「先幕効果」か「後幕効果」かを選択します。

コントロールパネルに ϟ SLOW が表示されます。
「後幕効果」では、内部フラッシュがプリ発光と本発光の2回発光します。

スローシンクロ（つづき）

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

・専用外部フラッシュご使用のときは、外部フラッシュも同じ設定で発光します。

・内部フラッシュ、外部フラッシュの両方に適用されます。
・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

外部フラッシュ撮影

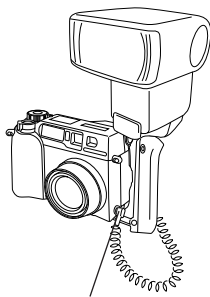
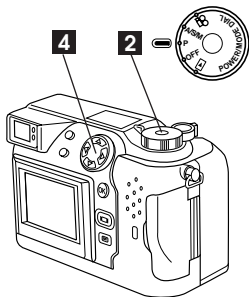
別売の専用外部フラッシュFL-40（別売）を使うことによって、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内部フラッシュと併用して撮影することができます。
専用外部フラッシュとカメラの接続には必ず専用グリップFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）をご使用下さい。

専用外部フラッシュを使って撮影する

専用外部フラッシュを使う場合、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するため、内部フラッシュと同様に扱うことができます。
内部フラッシュと外部フラッシュを両方使うと、外部フラッシュをバウンスさせ、内部フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。初期設定で内部＋外部の発光になっています。

操作方法

1 外部フラッシュFL-40を専用グリップに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをグリップとカメラの外部フラッシュ接続端子に接続します。

外部フラッシュ接続端子のキャップはネジ式ですので、接続の際はキャップを廻して外し、ご使用ください。

外部フラッシュ撮影（つづき）

2 カメラのモードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。
「A/S/M」の場合は、液晶モニタが点灯します。

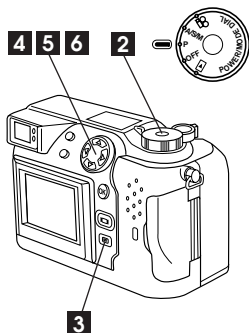
3 外部フラッシュの電源を入れます。
外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。

4 カメラのフラッシュモードを選択します。
フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」「発光禁止モード」があります。フラッシュ撮影（P.60）をご覧ください。

メモ
- **スローシンクロも設定できます。（P. 85参照）**

注意
- **近距離撮影時、露出がオーバーになる場合があります。内部フラッシュをお使い下さい。**
- **内部フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内部フラッシュは補助光源として発光しますのでFL-40の光量が不足する場合は露出アンダーとなります。**

専用外部フラッシュのみを使って撮影する

外部フラッシュのみを使用するか内部フラッシュと外部フラッシュを併用するかを選択します。外部フラッシュを使用する場合にカメラの電池消耗を防ぐために内部フラッシュを発光しないように設定できます。

操作方法

1 **外部フラッシュFL-40を専用グリップに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをグリップとカメラの外部フラッシュ接続端子に接続します。**

2 **カメラのモードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。**
「A/S/M」の場合は、液晶モニタが点灯します。

3 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「フラッシュ選択」を選択します。**

5 **十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「外部」を選択します。**

6 **十字ボタンの ◁ を押して、設定を確認します。**

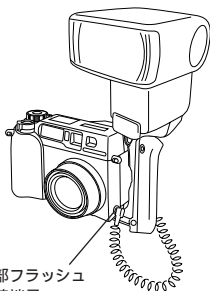
外部フラッシュ撮影（つづき）

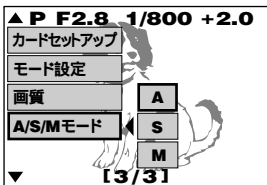
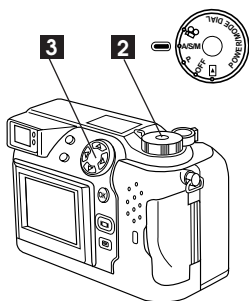
7 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意
- **設定クリア（P. 190）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **外部フラッシュの状態により、誤発光することがあります。**
- **FL-40とカメラの接続には必ず専用のグリップと専用のブラケットケーブルをご使用下さい。それ以外の方法ではFL-40は通常の外部フラッシュと同じ機能しかできません。**

市販の外部フラッシュを使って撮影する

専用グリップFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。
接続できる外部フラッシュの条件については、使用できる市販の外部フラッシュについて（P.92）をお読みください。

操作方法

1 外部フラッシュを専用グリップに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ接続端子に接続します。

2 カメラのモードダイヤルを「A/S/M」にセットします。
液晶モニタが点灯します。

3 メニュー画面でA/S/Mモードを「A（絞り優先モード）」または「M（マニュアル撮影モード）」に設定します。（P.104）

4 外部フラッシュの電源を入れます。

5 外部フラッシュをフラッシュ側で調光するモードに設定してください。
外部フラッシュでのモードの選択の方法は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意
- **市販外部フラッシュのご使用の場合、外部フラッシュのみの発光はできません。**
- **カメラのフラッシュモードは外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。**
- **市販ストロボをご使用になる前に以下の点にご注意ください。**
  - **市販のフラッシュにはシンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、正常に機能しない場合があります。 お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様についてはフラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。**
  - **市販のフラッシュにはシンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。
    フラッシュのメーカーへご相談下さい。**
- **お使いになるフラッシュがカメラに同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使い下さい。**
- **FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく故障の原因となる事がありますので使用しないでください。**
- **このカメラには、オリンパスの専用フラッシュをおすすめいたします。**

外部フラッシュ撮影（つづき）

使用できる市販外部フラッシュについて

外部フラッシュを選定する際に、下記の基本条件を満たす製品をご使用ください。

（1）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。
外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

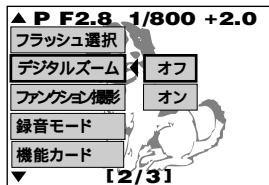
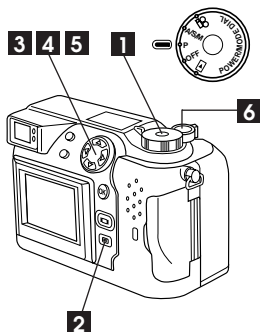
（2）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正は出来ません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）

（3）照射角度は35mmフィルム換算で、32mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

（4）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

（5）FL-40以外の通信機能付きストロボ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となる事がありますので使用しないでください。

デジタルズームモード

光学ズームの最大倍率からさらに最大2.5倍まで倍率を拡大できます。光学3倍ズームと組み合わせて、7.5倍ズーム相当の撮影が可能です。

操作方法

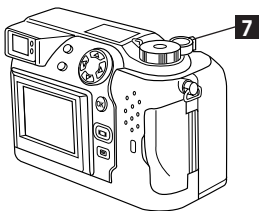
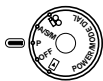
1 **モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。**
「P」のときは、液晶モニタを点灯させます。

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「デジタルズーム」を選択します。**

4 **十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して「オン」を選択します。**

5 **十字ボタンの ◁ を押して、設定を確認します。**

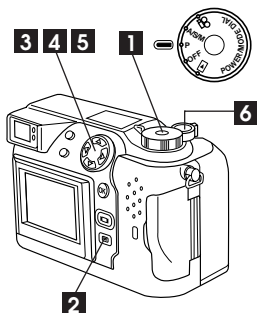
6 **OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。**
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

デジタルズームモード（つづき）

7 ズームレバーをT側へ回して拡大表示します。

液晶モニタにズームバーが表示されます。バーの白い領域が光学ズームを、赤い領域がデジタルズームを表しています。
デジタルズームを使用中でも液晶モニタをオフにすると、自動的にデジタルズームモードは解除されます。

注意
- **設定クリア（P.190）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **液晶モニタをオフにすると、設定は解除されて1倍に戻ります。**
- **デジタルモードでは、画質が粗くなることがあります。**

ファンクション撮影

エフェクト撮影ができます。モノクロは白黒に、セピアはセピア色に撮影できます。白板は白板上に書いた文字を、黒板は黒板上に書いた文字をそれぞれ読みやすく撮影します。

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「ファンクション撮影」を選択します。**

4 **十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「モノクロ」、「セピア」、「白板」、「黒板」の中から選択します。**

5 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

6 **OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。**

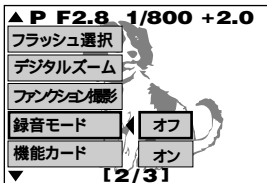
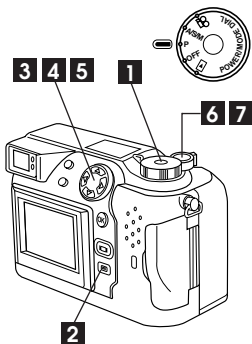
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

ファンクション撮影モードでの撮影中は、自動的に液晶モニタが点灯しています。

注意

- **「白板」「黒板」を選択して文字がきれいに撮影されない場合は、露出補正をしてください。(P. 59参照)**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **モードダイヤルを「 🎥 」にセットすると、「白板」と「黒板」はオフに戻ります。**

録音モード

撮影した時の音声を録音することができます。撮影終了後から約4秒間の録音ができます。

操作方法

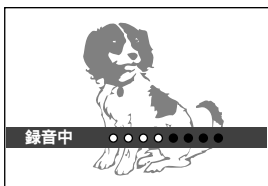
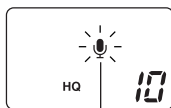
1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「録音モード」を選択します。

4 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「オン」を選択します。
コントロールパネルに録音マークが表示されます。

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。
OKボタンを押すと設定が保存されてメニューモードから抜けます。

コントロールパネル

録音マーク

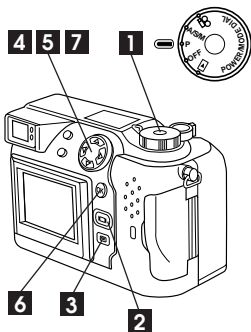
7 撮影をします。

シャッターが切れて約0.5秒後から録音が始まります。録音中は緑ランプとコントロールパネルの録音マークが点滅します。液晶モニタにはバーが表示されます。

メモ
- **撮影後の静止画に音声をあとから録音することもできます。(P.115)**

注意
- **TIFF モードではできません。(再生モードでのアフレコはできます)**
- **録音は、撮影後のカードへの画像の記録前に行われます。撮影後は液晶モニタやコントロールパネルの表示を確認して、カメラの録音マイク(p.20)を録音したい対象の方向へ向けておいてください。**
- **カメラから1m以上離れるときれいに録音されない場合があります。**
- **録音中は次の撮影はできません。**

パノラマモード

オリンパスの標準スマートメディア(カード)には、パノラマモードが付いており、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」にセットします。

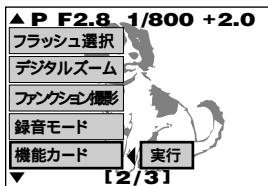
2 液晶モニタON/OFFボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。

3 メニューボタンを押して、液晶モニターにメニューを表示させます。

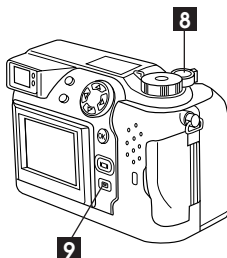
4 十字ボタンの △ ▽ を押して、「機能カード」を選択します。

5 十字ボタンの ▷ を押して、「実行」を選択します。

6 OKボタンを押します。

7 十字ボタンでつなげる方向を上下左右4方向に指定します。
モニタ画面に表示が出ます。

8 被写体の端が重なるようにして撮影します。

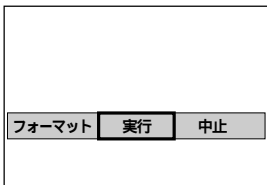
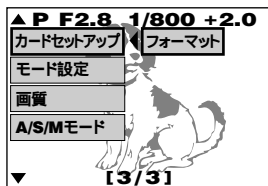
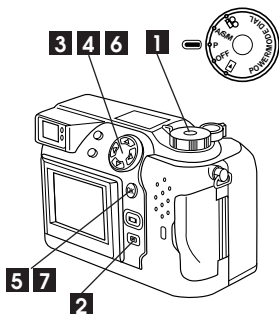
最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください

9 メニューボタンを押すと、パノラマモードは解除されてメニューモードから抜けます。

注意

- **標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。**
- **最初に液晶モニタを点灯させないと、メニューボタンを押してもパノラマモードには設定できません。**
- **パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は別売のCAMEDIA Master2.0をご使用ください。**
- **ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。**
- **1枚目を撮影した後はズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。**
- **HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うとパソコンのメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。**
- **パノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。**
- **TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、JPEG(圧縮)で記録されます。**

カードセットアップ（カードの初期化）

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押して、「フォーマット」を選択します。

5 OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

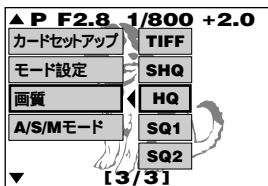
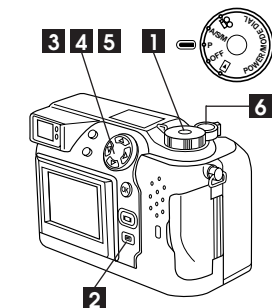
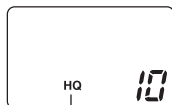
6 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。
キャンセルする場合は、「中止」を選択します。

7 OKボタンを押すとカードの初期化が始まります。
初期化が終了すると、メニューモードから抜けます。

注意

- 画像を確認してからの初期化をおすすめします。
- 初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。
- オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。

画質モードの設定

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。
画質の種類は「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ1」「SQ2」の5種類があります。画質は「SQ2」→「SQ1」→「HQ」→「SHQ」→「TIFF」の順に高画質になります。

コントロールパネル

画質モード

操作作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「画質」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、記録サイズを選択します。
コントロールパネルに画質モードが表示されます。

5 十字ボタンの ◁ を押して、設定を確認します。
TIFF、SQ1、SQ2の画質での記録サイズと圧縮率の組み合わせを設定することができます。（P.195 ～ 198）

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

各画質モードであらかじめ設定されている記録画素数と圧縮率は以下の通りです。

画質モード	TIFF	SHQ	HQ
記録画素数 (初期設定状態)	2048 × 1536		
圧縮	非圧縮	低圧縮 JPEG	標準 JPEG

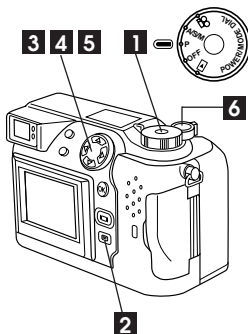
画質モード	SQ1(標準)	SQ2(標準)
記録画素数 (初期設定状態)	1280 × 960	640 × 480
圧縮	標準 JPEG	

注意

- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **モードダイヤルを「 」にセットすると、記録サイズは「HQ」に戻ります。**
- **圧縮率が低いほど、引き伸ばしたときの画像はきれいです。また、SQ1、SQ2、HQに比べてSHQ、TIFFは記録・再生時間は長くかかります。**
- **撮影可能枚数は画質モードによって変わります。(P. 38)**

A/S/Mモードの設定

モードダイヤル「A/S/M」のマニュアル撮影モードを「A (絞り優先撮影)」、「S (シャッター優先撮影)」、「M (マニュアル撮影)」の中から選択できます。絞り優先撮影では絞り値を、シャッター優先撮影ではシャッター速度を、マニュアル撮影ではその両方を自分で設定できます。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

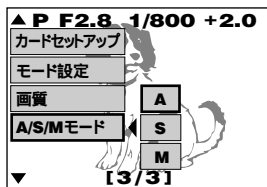
3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「A/S/Mモード」を選択します。

4 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、A/S/Mモードを選択します。

各モードの使い方については、それぞれの撮影モードの説明をお読みください。

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

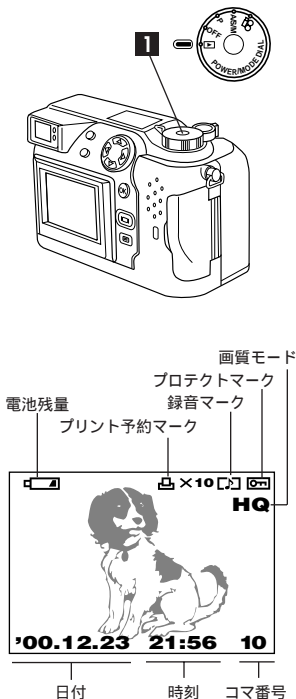
6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意 ・**設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

画像再生のしかた

撮影した画像を液晶モニタに表示します。

1コマ再生します

液晶モニタに1コマだけ画像を表示します。

操作方法

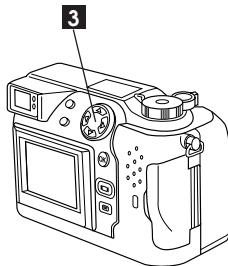
1 モードダイヤルを「▶」にセットすると、再生モードとなり、液晶モニタが点灯します。

再生モードで電源が入ると、自動的にカードチェックが行われます。カードが入っていない時／カードに問題がある時は、コントロールパネルのカード警告マークが点滅します。

フォーマットが異なるカードが入っている時は、自動的に初期化モードに入ります。(P.119参照)

2 撮影された最新の画像が表示されます。

一枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」の表示が出ます。

画像再生のしかた（つづき）

液晶モニタには画像の他に、コマ番号、画質モード、電池残量マークが約5秒間表示されます。また設定を行っている場合は、プロテクト、日時、プリント予約も同様に表示されます。
電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告のマークが赤色で点灯します。
「🎥」が表示されている画像は動画です。ムービー再生して見ることができます。(P. 148参照)

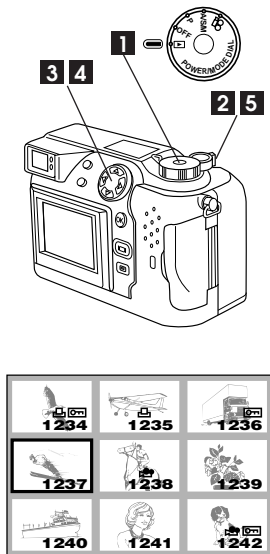
3 十字ボタンの ◁ ▷ △ ▽ を押して、画像を選択します。

◁：1コマ前の画像を表示します。
▷：次の画像を表示します。
△：10コマ前の画像を表示します。
▽：10コマ先の画像を表示します。

メモ
- **撮影時の情報（カメラの設定、日時、ファイルネームなど）を表示することもできます（P. 113）。**

注意
- **カメラで自動的につけられるファイル名、フォルダ名以外の名前の画像については、再生はできません。(P. 208)**
- **電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5～2秒程してから画像が表示されるのは故障ではありません。**
- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**
- **音声はカメラでは再生できません。テレビに接続して再生してください。(P. 121)**

インデックス再生します

画像をインデックス表示させることができます。画像を探す時に便利です。

操作方法

1 **モードダイヤルを「 ▶ 」にセットして、液晶モニタに画像を表示させます。**

2 **ズームレバーをW側に回すとインデックスディスプレイモードになり、表示中の画像を含む複数の画像が表示されます。**
再生に1秒程度かかります。

3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して選択枠を移動させることができます。**
◁: 左へコマ移動します。
▷: 右へコマ移動します。

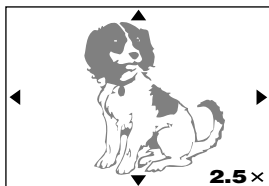
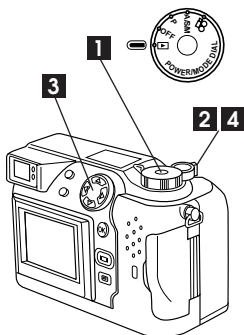
4 **十字ボタンの △ を押すと、画面左上の画像のひとつ前の画像を含む複数の画像が表示されます。十字ボタンの ▽ を押すと、画面右下の画像の次の画像を含む複数の画像が表示されます。**

5 **ズームレバーをT側に回すと、選択されている画像が1コマ再生されます。**

メモ　・表示コマ数は4、9、16コマの中から選べます。(P.214参照)

画像再生のしかた（つづき）

拡大再生(クローズアップ再生)します

画像を拡大して表示させることができます。

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットして、液晶モニタに拡大したい画像を表示させます。

2 ズームレバーをT側に回すと、モニタに表示されている画像が1.5倍に拡大表示されます。さらにズームレバーをT側に回すたびに、2倍、2.5倍、3倍に切り替わります。

ズームレバーをW側に回すと、1倍に戻ります。

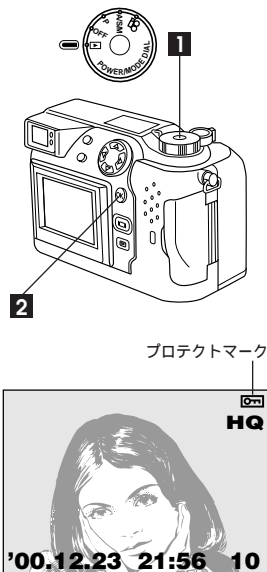
3 十字ボタンを使って、選択範囲をスクロールさせることが出来ます。

4 選択画像を変えるには、ズームレバーをW側に回し、1倍表示に戻ってコマ送りをしてください。

画像のプロテクト

残しておきたい画像にプロテクト(消去禁止)をかけます。

プロテクトマーク

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットして、液晶モニタに残しておきたい画像を表示させます。

2 OKボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

液晶モニタに ⊶ が表示されます。

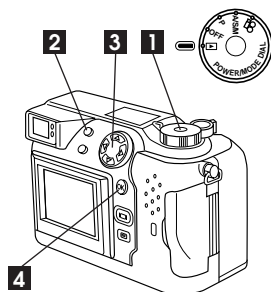
プロテクトを解除するには、その画像が表示された状態で再度OKボタンを押します。

＊インデックスディスプレイモード（P.107）、クローズアップ再生モード（P.108）でも、プロテクトの設定、解除ができます。

注意

- **プロテクトされた画像は全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化すると消滅します。**
- **ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

1コマ消去

消したい画像にプロテクトがかかっている場合及びカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

操作方法

1 **モードダイヤルを「 ▶ 」にセットして、液晶モニタに消したい画像を表示させます。**

2 **消去ボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。**
キャンセルする場合は、「中止」を選択して、OKボタンを押すか消去ボタンを押します。

4 **OKボタンを押すと、表示中の画像が消去されます。**
＊インデックスディスプレイモード（P.107）、クローズアップ再生モード（P.108）でも、1コマ消去ができます。

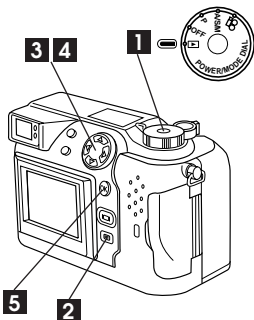
注意　**・消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。**

静止画再生メニュー

モードダイヤルが「 ▶ 」にセットしてあり、液晶モニタに静止画が表示されている時にメニューボタンを押すと、モニタに静止画再生メニューが表示され、以下の設定ができます。

液晶表示	機能・目的
自動再生	自動送りで再生します。(P. 112)
画像情報表示	画像の撮影情報（カメラの設定、日時、ファイルネーム等）を表示します。(P. 113)
録音	撮影済みの画像に音声を付けます。(P. 115)
ファンクション再生	機能付きカード使用時に。
カードセットアップ	全コマ消去(P. 117)、及び初期化時に。(P. 119)
モード設定	設定クリア(P. 190)、ビープ音(P. 199)、インデックス設定(P. 214)、液晶モニタの明るさ設定(P. 211)、日時設定(P. 30)。

自動再生します

スライドのように1枚ずつ自動的にコマ送りをして、撮影した画像を表示させせることができます。

操作方法

1 **モードダイヤルを「 ▶ 」にセットして、静止画を表示させせます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニューを表示させせます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「自動再生」を選択します。**
キャンセルする場合はメニューボタンを押します。

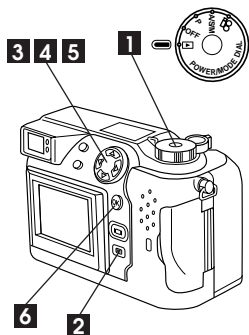
4 **十字ボタンの ▷ を押して「スタート」を選択します。**

5 **OKボタンを押すと自動再生が始まり、メニューボタンを押すと止まります。**

注意　・**自動再生は一巡しても止まりません。メニューボタンを押して終了させてください。（ACアダプタを接続していない場合は、30分程で自動的に電源が切れます。）**

画像情報表示

再生時、画像の撮影情報（カメラの設定、日時、ファイルネーム等）を液晶モニタに表示させることが出来ます。5秒間画像情報が表示されます

操作方法

1 **モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。**

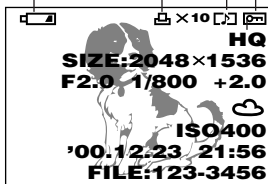
2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「画像情報表示」を選択します。**
キャンセルする場合は、メニューボタンを押します。

4 **十字ボタンの▷ を押して「オン」を選択します。**

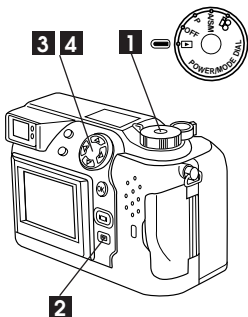
5 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

6 **OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。**

画像情報表示（つづき）

注意
- **画像情報を表示している時は、コマ番号は表示されません。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

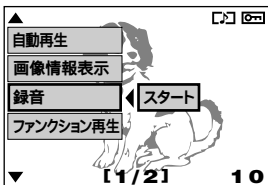
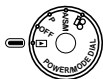
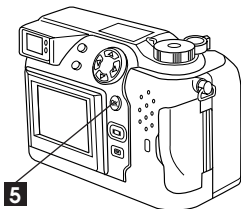
音声記録します

撮影済みの画像に音声をつける（アフレコ）ことや、すでに記録されている音声を書き換えることもできます。

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

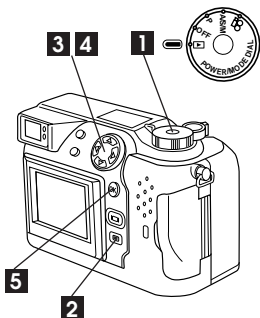
3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「録音」を選択します。
キャンセルする場合はメニューボタンを押します。

4 十字ボタンの ▷ を押して「スタート」を選択します。

音声記録します（つづき）

5 OKボタンを押すと、録音が始まります。録音時間は約4秒間です。液晶モニタにはバーが表示されます。

注意
- ・カメラから1ｍ以上離れるときれいに録音されない場合があります。
- ・ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには録音できません。
- ・カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。
- ・録音済みの画像に再度録音した場合は前の音声が消えて新しい録音のみ残ります。

カードセットアップ

画像の全コマ消去及びカードの初期化を行います。

全コマ消去

消したい画像にプロテクトがかかっている場合、およびカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するか、ライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

操作方法

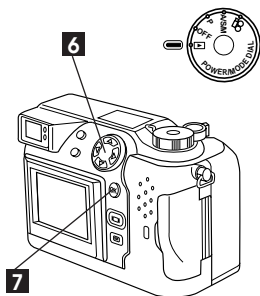
1 モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。

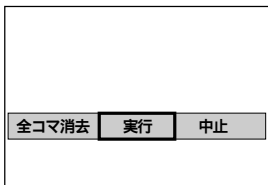
2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「全コマ消去」を選択します。

5 OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

カードセットアップ（つづき）

6 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。
キャンセルする場合は、「中止」を選択して、OKボタンを押します。

7 OKボタンを押すとカード内の全画像が消去され、「画像が記録されていません」の表示が出ます。
プロテクト(P.109)のかかっている画像は消去されません。この場合は消去後にプロテクト最終コマが表示されます。

注意
- 記録されている画像の枚数により、消去時間は異なります。
- 誤って大切なデータを消してしまうことのないよう、十分ご注意ください。
- 消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。

カードの初期化

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「フォーマット」を選択します。

5 OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

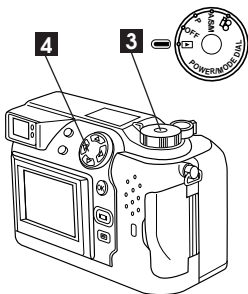
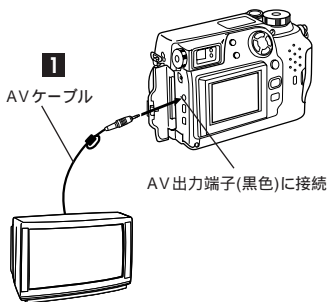
6 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。
キャンセルする場合は、「中止」を選択して、OKボタンを押します。

7 OKボタンを押すとカードが初期化され、「画像が記録されていません」の表示が出ます。

カードセットアップ（つづき）

- 画像を確認してからの初期化をおすすめします。
- 初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。
- オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。

テレビ画面で再生します

同梱のAVケーブルでテレビに接続すると、パソコンがなくても大きな画面で画像を確認できます。
画像に音声が記録されている場合は、音声も再生します。

操作方法

接続の前に、テレビとカメラの電源が切れていることを確認してください。

1 AVケーブルをカメラのAV出力端子に接続し、テレビ側では黄色のピンプラグを映像入力端子に、白色のピンプラグを音声入力端子に接続してください。

2 テレビの電源を入れます。

3 モードダイヤルを「▶」にセットします。

4 十字ボタンで画像を選択します。

[リモコンを使う場合]

リモコンをカメラの受信窓に向けます。+/−ボタンで画像を選択し、Wボタンでインデックス表示にできます。Tボタンを押すと拡大表示になり、そこで+/−ボタンを押すと選択範囲を移動させることができます。

注意

- **テレビに接続すると液晶モニタは消灯します。**
- **テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。**
- **ご使用のテレビによっては画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタに出力すると黒枠が目立つことがあります。**
- **ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。**

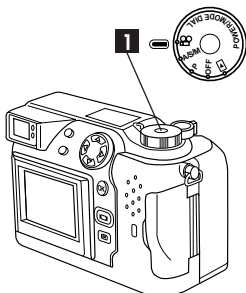
3

動画の機能を使ってみましょう

- ＨＱモードで約２３秒、ＳＱモードで約９２秒の動画撮影が可能です。(８ＭＢカード使用時)
- 撮影した動画はMotion ＪＰＥＧファイルとしてカードに記録されます。
- 記録した動画をムービー再生して見ることができます。
- 動画の記録と同時に音声も記録されます。

動画の撮影のしかた

液晶モニタを使った撮影のしかた

操作方法

1 **モードダイヤルを「 🎥 」にセットします。**

2 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**
シャッターボタンを半押します。ピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

- 「ピントの合いにくいもの」(P. 50)もお読みください。

3 **撮影を始めるには、シャッターボタンを押し切ります。撮影を終わらせるには、再びシャッターボタンを押し切ります。**
液晶モニタに撮影可能秒数が表示されます。
液晶モニタのメモリゲージ1番下が点灯し、カードへの記録が始まります。
撮影時間が約1秒を越えると、メモリゲージ中央が点灯します。

4 バッファメモリに空きがなくなると、メモリゲージ１番上が点灯して撮影ができなくなります。カードアクセスランプの点滅が終了すると次の撮影に入れます。

レックチェックを設定していると、画像を記録する前に撮影画像を保存するか消去するかの選択ができます。(P. 203)

注意

- **レックチェックを設定しているときは、撮影時間が長いと撮影後しばらくは液晶モニタに何も表示されないことがあります。これは画像処理中により起こるもので、故障ではありません。**
- **動画撮影中は、フォーカスロックしたところでピントが固定されます。近景から遠景など著しく異なる対象を撮影する場合は、一度撮影を止めて再度ピントを合わせてください。**
- **「 」モードでは、ズームはデジタルズームのみになります。光学ファインダーでは、画像は変化しないので確認できません。**
- **静止画像に比べ、画質が粗くなる場合があります。**
- **構図よりもやや狭い範囲が撮影されます。**
- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**
- **液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません(ファインダーとして利用時及び、モニタ再生時共に)。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。**
- **被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。**
- **液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。**
- **晴天下のように明るい場所で撮影したとき、わずかに縦スジ(スミア)が入る場合があります。**

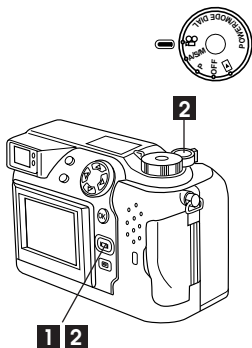
動画の撮影のしかた（つづき）

確認再生

撮影した内容をすぐに見たいときに使用します。

操作方法

1 モードダイヤルが「 🎥 」の時に液晶モニタON/OFFボタンをすばやく2回押すと、再生モードになります。(P. 147～160参照)

2 再度液晶モニタON/OFFボタンを押すかシャッターボタンを押すと、撮影モードに戻ります。

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

操作方法

1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
同時に露出も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に変えて押し切ります。

メモ
- **液晶モニタには、オートフォーカスマークは表示されません。撮影したいものをモニタの中心にくるようにして、ピントが合ったことを確認してください。**

注意
- **シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピント、露出が固定されていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。**

撮影距離

撮影は 0.2 m 〜 ∞ (無限遠）の範囲で行ってください。

・0.2 mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。

・近距離での撮影は、必ず液晶モニタで構図を確認してください。

・液晶モニタを使用すると電池消耗が早くなります。

撮影距離

マクロモード	0.2 m 〜 0.8 m
通常モード	0.8 m 〜 ∞

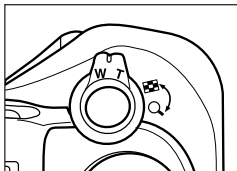
ズーム

望遠や広角撮影ができます。動画撮影モードでは、デジタルズームのみになります。ファインダー内の像は、ズーム操作に連動して変化しません。効果は液晶モニタで確認してください。

ズームレバーを T 側へ回すと望遠になります。

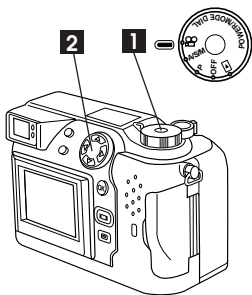
ズームレバーを W 側へ回すと広角になります。

W

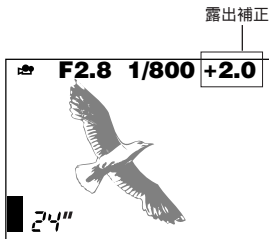
T

- 動画撮影時はデジタルズームのみのため、倍率が大きくなると画質は粗くなります。
- 撮影中のズーム動作では、画像が多少ぶれます。

注意 **・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

露出補正

露出は撮影時に自動的にセットされますが、+/−2段の範囲で約1/3段刻みの補正が可能です。
白の多い被写体には+の、黒の多い被写体には−の補正を入れると効果的です。

操作方法

1 モードダイヤルを「🎥」にセットします。
液晶モニタが点灯し、上部に露出補正値が表示されます。

2 十字ボタンの ▷ を押すと（+）に、◁ を押すと（−）に補正されます。
0以外の設定をすると、コントロールパネルに ☒ が表示されます。

注意

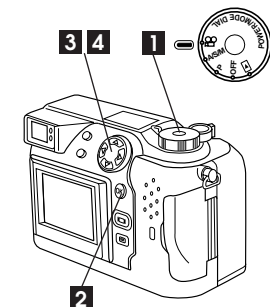
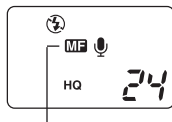
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **露出補正をすると液晶モニタの明るさも変わりますが、うす暗い被写体では変化しにくくなります。その時は撮影画像を再生してご確認ください。**

マニュアルフォーカス

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ選択できます。

コントロールパネル

マニュアルフォーカス

操作作方法

1 **モードダイヤルを「 🎥」にセットします。**

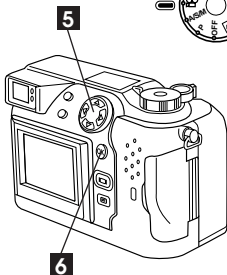
2 **OKボタンを押すと、液晶モニタにフォーカスモードの選択画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの ▷ を押して「MF」を選択すると、コントロールパネルに「 MF 」が表示され、液晶モニタの距離表示のカーソルがアクティブになります。**

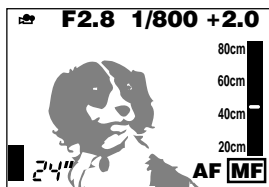
キャンセルする場合は十字ボタンの ◁ を押して「AF」を選択し、コントロールパネルの「 MF 」が消えたら、OKボタンを押します。

4 **液晶モニタを見ながら十字ボタンの △ ▽ を押してカーソルを移動させ、距離を選択します。**

操作中はモニタ表示が拡大されるので、ピントの確認が容易にできます。

マニュアルフォーカス（つづき）

5 0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に20cm〜80cmの目盛りに切り替わります。

6 OKボタンを押すと、設定が保存されて赤字で表示されます。

動画の機能を使ってみましょう 【撮影機能】

注意

- 動画撮影中、フォーカス位置を変更できません。
- 設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
- 液晶モニタの距離表示はあくまでも目安です。

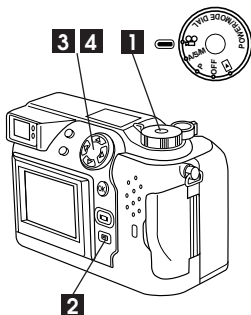
動画撮影メニュー

モードダイヤルが「 🎥 」にセットしてある時にメニューボタンを押すと、液晶モニタに動画撮影メニューが表示され、以下の設定ができます。（P.40 参照）

液晶表示	機能・目的
セルフタイマー/リモコン	セルフタイマー/リモコン使用時に。(P. 134)
ホワイトバランス	光源に合わせてホワイトバランスを設定。(P. 138)
ISO感度	ISO感度を設定。(P. 140)
ファンクション撮影	エフェクト撮影時に。(P. 142)
カードセットアップ	初期化時に。(P. 143)
モード設定	設定クリア (P. 190)、シャープネス (P. 194)、ビープ音 (P. 199)、レックビュー (P. 202)、液晶モニタの明るさ設定 (P. 211)、日時設定 (P. 30)、長さ単位設定 (P. 213)、ファイル名メモリー (P. 208)。
画質	画質モードの設定。(P. 145)

セルフタイマー／リモコン

セルフタイマーを使って撮影ができます。カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

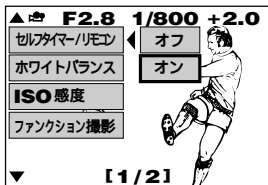
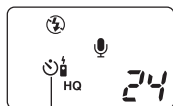
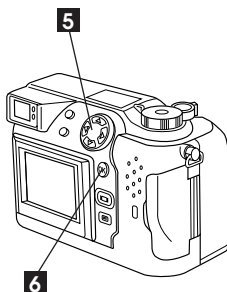
コントロールパネル

セルフタイマー／リモコン

操作方法

1 モードダイヤルを「 」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「セルフタイマー／リモコン」を選択します。

4 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「オン」を選択します。

コントロールパネルに「 」が表示されます。

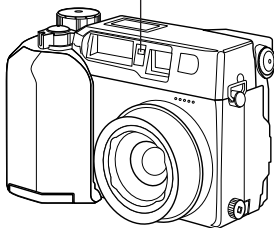
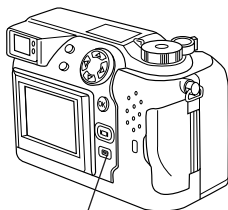
5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

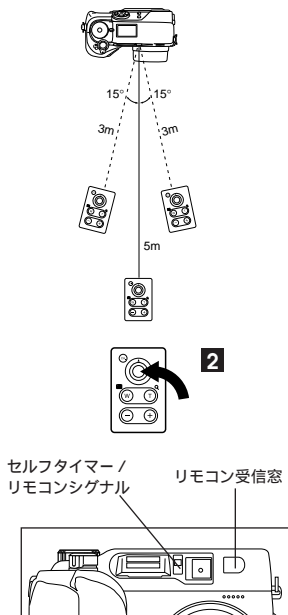
OKボタンを押さずに撮影する事もできます。（P. 136/137参照）

注意 ・設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されませんが、セルフタイマーを使った撮影後は解除されます。

セルフタイマー／リモコン（つづき）

セルフタイマーを使った撮影のしかた

シャッターボタンを押すと、カメラ前面のセルフタイマー／リモコンシグナルが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後に撮影が始まります。

作動中のセルフタイマーを途中で止めるには、メニューボタンを押します。

注意 ・セルフタイマーで撮影後、セルフタイマー/リモコンモードは解除されます。

リモコンを使った撮影のしかた

操作方法

1 リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのW又はTボタンを押し、構図を決めます。

カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅します。

2 リモコンのシャッターボタンを押すと、カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅し、約3秒後に撮影が始まります。

シャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅しない場合は、カメラに近づいて再度シャッターボタンを押します。(電波が混信している時はシグナルが点滅しないので、リモコンの取扱説明書に従ってチャンネルを変えてください。)

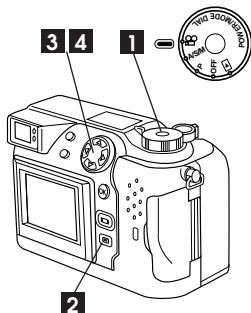
メモ

- **リモコンを使った再生のしかたは、P.121をご覧ください。**

注意

- **撮影時リモコンに設定後、約3分間操作しないとリモコン設定が解除されます。**
- **太陽下など明るい環境では、リモコン電波の到達距離が短くなります。**
- **リモコン受信窓に強い光をあてないでください。**
- **撮影後もセルフタイマー/リモコンモードは解除されません。**

ホワイトバランス

オートでは思い通りの仕上がりになりにくい光源の時などは、各モードを選ぶ事により、より良い仕上がりになります。

コントロールパネル

マニュアルホワイトバランスマーク

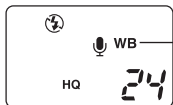
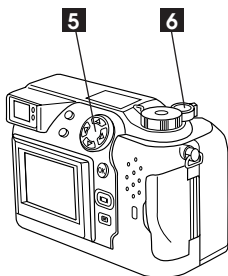
操作方法

1 モードダイヤルを「🎥」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ホワイトバランス」を選択します。

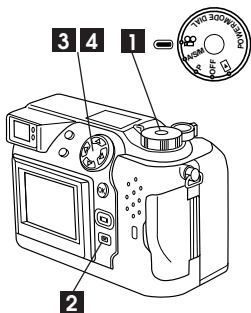
4 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、
「オート」、
「☼ (晴天)」、
「☁ (曇天)」、
「☼ (電球)」、
「☰ (蛍光灯)」
の中から選択します。

オート以外の設定をすると、コントロールパネルに「**WB**」が表示されます。

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **特殊な光源下では対応できない場合があります。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **色の確認は必ず液晶モニタで画像を再生して行ってください。**

ISO感度の設定

感度をオート、約100固定、約200固定 (2倍感度アップ)、約400固定 (4倍感度アップ)の中から選択できます。
感度が高くなるほど、速いシャッタースピード及び低照度下での撮影が可能になります。

コントロールパネル

ISOマーク

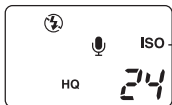
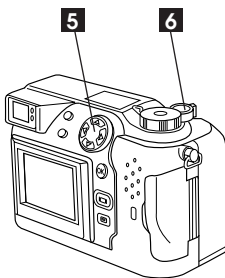
操作方法

1 モードダイヤルを「🎥」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ISO感度」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、ISO感度を選択します。

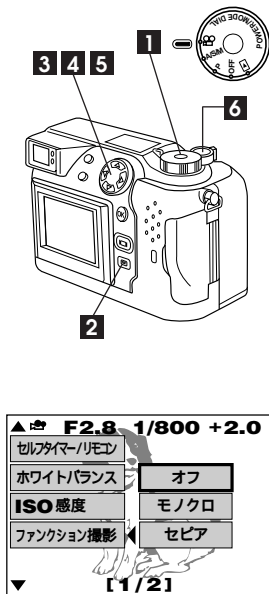
オート以外を選択すると、コントロールパネルに「ISO」が表示されます。

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。
OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意

- **感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。**
- **オートを選択した時、暗い所では、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。**
- **感度を上げると画像にノイズが増えます。**
- **設定クリア(P．190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

ファンクション撮影

エフェクト撮影ができます。モノクロは白黒に、セピアはセピア色に撮影できます。

操作方法

1 モードダイヤルを「 」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ファンクション撮影」を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「モノクロ」か「セピア」かを選択します。

5 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

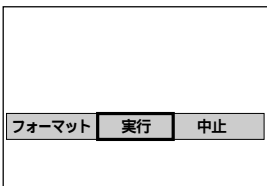
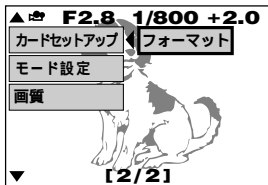
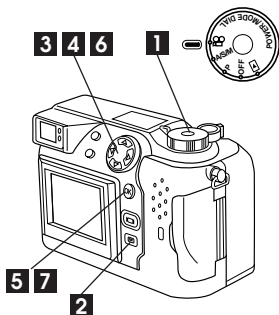
6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

注意 ・**設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

カードセットアップ(カードの初期化)

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。

操作方法

1 **モードダイヤルを「🎥」にセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。**

4 **十字ボタンの ▷ を押して、「フォーマット」を選択します。**

5 **OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

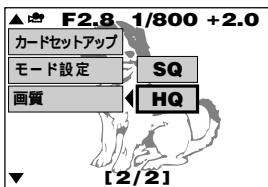
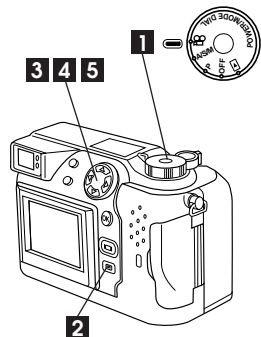
6 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。**
キャンセルする場合は、「中止」を選択します。

7 **OKボタンを押すとカードの初期化が始まります。**
初期化が終了すると、メニューモードから抜けます。

カードセットアップ(つづき)

- 画像を確認してからの初期化をおすすめします。
- 初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。
- オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。

画質モードの設定

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。
画質の種類は「HQ」「SQ」の2種類があります。画質は「SQ」→「HQ」の順に高画質になります。

コントロールパネル

画質モード

操作作方法

1 **モードダイヤルを「🎥」にセットします。**

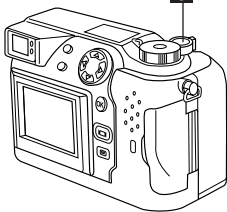
2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「画質」を選択します。**

4 **十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、画質モードを選択します。**
コントロールパネルに画質モードが表示されます。

5 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

画質モードの設定（つづき）

6 OKボタンを押さずに撮影すると、再度メニューボタンを押すまで設定が有効になります。

OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

画質モード　HQ

記録画素数　　320 X 240ピクセル (15コマ／秒)

画質モード　SQ

記録画素数　　160 X 120ピクセル (15コマ／秒)

動画撮影可能秒数（秒）

画質モード	記録画素数	スマートメディアの記憶容量			
		2MB	4MB	8MB	16MB以上
HQ	320×240	5	11	23	30
SQ	160×120	22	45	92	120

注意
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **画質の設定によって撮影可能秒数が変わります。**

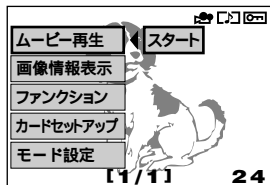
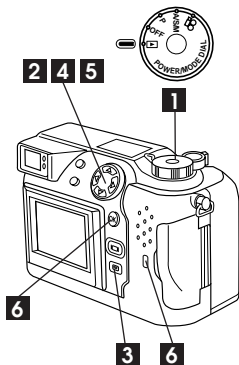
動画再生メニュー

モードダイヤルが「 ▶ 」にセットしてあり、液晶モニタに動画が表示されている時にメニューボタンを押すと、モニタに動画再生メニューが表示され、以下の設定ができます。（P.40 参照）

液晶表示	機能・目的
ムービー再生	動画をムービー再生。（P. 148）
画像情報表示	画像の撮影情報（日時、ファイルネーム等）を表示します（P. 150）。
ファンクション	ムービーインデックス作成（P. 152）、ムービーの編集（P. 155）。
カードセットアップ	全コマ消去 (P. 157) 及び初期化時に (P. 159)。
モード設定	設定クリア (P. 190)、ビープ音 (P. 199)、インデックス設定 (P. 214)、液晶モニタの明るさ設定 (P. 211)、日時設定 (P. 30)。

動画をムービー再生します

動画をムービー再生します。動画は液晶モニタに「 🎥 」が表示されます。

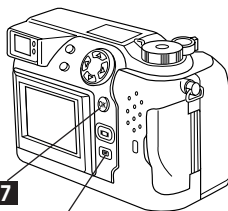
操作方法

1 モードダイヤルを「 ▶ 」にセットします。
液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンを使って、「 🎥 」のついた画像を液晶モニタに表示させます。
画像情報が約５秒間表示されます。消去ボタンやメニューボタンなどの操作をした後は、再表示されます。

3 メニューボタンを押して、液晶モニタにメニュー画面を表示させます。

4 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ムービー再生」を選択します。
キャンセルする場合はメニューボタンを押します。

5 十字ボタンの ▷ を押して「スタート」を選択します。

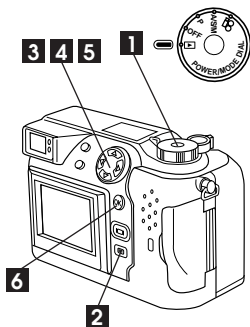
6 OKボタンを押すとカードアクセスランプが点滅し、点滅が終わるとムービー再生が始まります。

7 再生中にOKボタンを押すと再生が一時停止し、また押すと再生が始まります。

一時停止の状態で以下の操作が出来ます。
十字ボタン △ を押すとそのムービーの先頭が、▽ を押すとそのムービーの最後が表示されます。
▷ を押している間再びムービー再生され、◁ を押している間逆再生されます。

8 再生後にメニューボタンを押すとメニュー画面に戻り、もう一度押すとメニューモードから抜けます。

・テレビ画面で再生することもできます。テレビに接続したときは、音声の再生もできます。(P. 121参照)

画像情報表示

再生時、画像の撮影情報（カメラの設定、日時、ファイルネーム等）を液晶モニタに表示させることが出来ます。

操作方法

1 **モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニューを表示させます。**

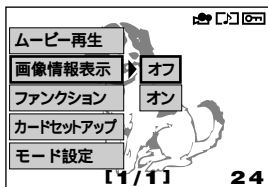
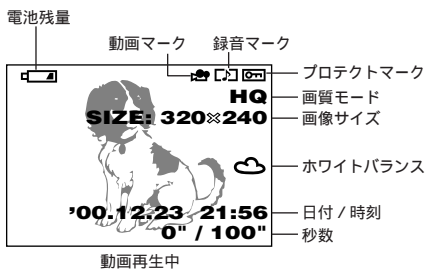
3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「画像情報表示」を選択します。**
キャンセルする場合は、メニューボタンを押します。

4 **十字ボタンの ▷ を押して「オン」を選択します。**

5 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

6 **OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。**

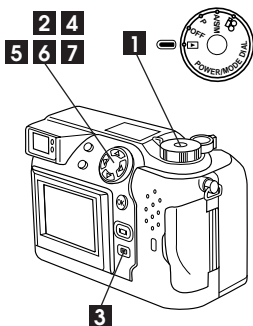
動画再生中

画像を選択したとき

注意
- **画像情報を表示している時は、コマ番号は表示されません。**
- **設定クリア(P. 190)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

ファンクション

記録した画像のインデックスをつくったり画像の編集を行います。

インデックス作成

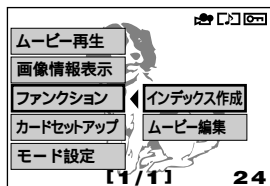
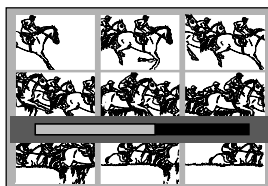
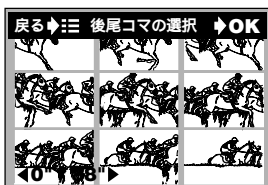
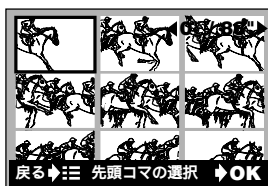
撮影した動画をインデックス表示することができます。また、作成したインデックスは静止画としてカードに保存できます。

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットします。

2 十字ボタンを使って、「🎥」のついた画像を液晶モニタに表示させます。

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

4 十字ボタンの△▽を押して、「ファンクション」を選択します。

5 十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「インデックス作成」を選択してOKボタンを押します。

6 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、インデックス表示する動画の先頭コマを選択し、OKボタンを押します。

・十字ボタンの △ を押すと先頭コマが、▽ を押すと最終コマが表示されます。この時、最後尾コマ画像を残して他のコマは表示が切り替わります。

・左下に動画全体の時間と選択している最後尾の時間が表示されます。

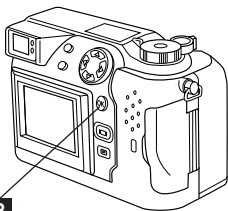
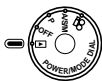
▷ ：動画を先へ進めます。

◁ ：動画を後戻りさせます。
インデックス表示するために必要なコマまでしか、先へ進めることはできません。

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、インデックス表示する後尾コマを選択します。

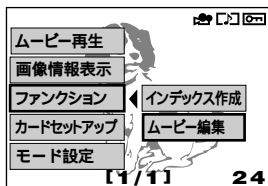
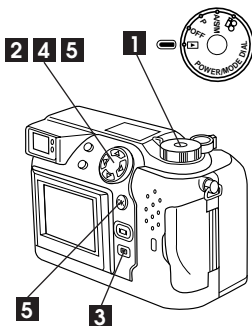
・先頭コマを選択する時と同じように、十字ボタンを使って画像を選択できます。このとき、先頭コマ画像を残して他のコマは表示が切り替わります。

・メニューボタンを押すと、先頭コマの選択へ戻ります。

ファンクション（つづき）

8 **OKボタンを押すと作成されたインデックス画像がカードに記録されて、メニューモードから抜けます。作成されたインデックス画像の記録モードは、下記のとおりです。**
HQ → SQ2 (1024 x 768/高画質)
SQ → SQ2 (640 x 480/高画質)

注意 ・作成できるインデックス画像は、9分割のみです。

ムービー編集

ムービー編集を行います。
記録したムービーから不要な部分を削除したり、編集して新しい画像として記録します。

操作方法

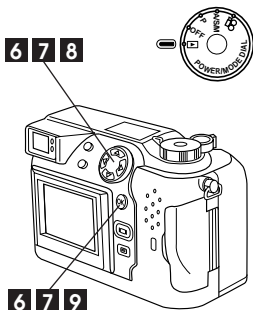
1 モードダイヤルを「▶」にセットします。

2 十字ボタンを使って、「🎥」のついた画像を液晶モニタに表示させます。

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

4 十字ボタンの △ ▽ を押して、「ファンクション」を選択します。

5 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「ムービー編集」を選択してOKボタンを押します。

ファンクション（つづき）

6 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、先頭フレームを表示させてOKボタンを押します。

十字ボタンの △ を押すとムービーの先頭フレームが、▽ を押すと最終フレームが表示されます。

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、最終フレームを表示させてOKボタンを押します。

先頭フレームを選択する時と同じように、十字ボタンの △ ▽ を使ってフレームを選択できます。

8 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「新規作成」か「上書き保存」を選択します。

「新規作成」は編集した画像を別の名前で新しい画像として保存します。

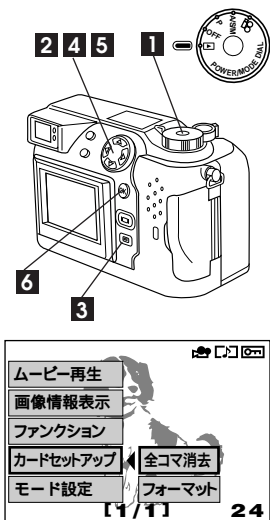
「上書き保存」は編集した画像を元の名前で保存します。元の画像は失われます。

9 OKボタンを押すと画像が記録されてメニューモードから抜けます。

カードセットアップ

画像の全コマ消去及びカードの初期化を行います。

全コマ消去

消したい画像にプロテクトがかかっている場合及びカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

操作方法

1 **モードダイヤルを「▶」にセットします。**

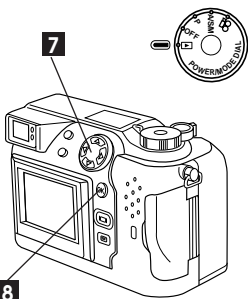
2 **十字ボタンを使って、「🎥」のついた画像を液晶モニタに表示させます。**

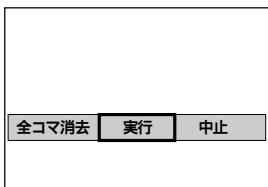
3 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。**

5 **十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「全コマ消去」を選択します。**

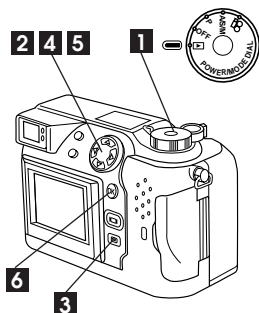
6 **OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

カードセットアップ（つづき）

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。
キャンセルする場合は、「中止」を選択してOKボタンを押します。

8 OKボタンを押すとカード内の全画像が消去され、「画像が記録されていません」の表示が出ます。
プロテクト(P.109)のかかっている画像は、消去されません。この場合は、消去後にプロテクト最終コマが表示されます。

注意
- 誤って大切なデータを消してしまうことのないよう、十分ご注意ください。
- 消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。

カードの初期化

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。

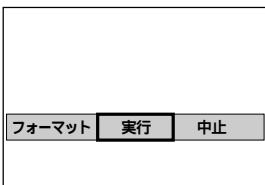
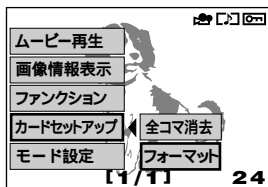
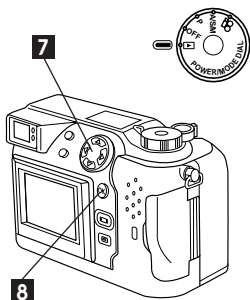
操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットします。

2 十字ボタンを使って、「🎥」のついた画像を液晶モニタに表示させます。

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

4 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択します。

5 十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、「フォーマット」を選択します。

6 OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

カードセットアップ（つづき）

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「実行」を選択します。
キャンセルする場合は、「中止」を選択してOKボタンを押します。

8 OKボタンを押すとカードが初期化され、「画像が記録されていません」の表示が出ます。

注意
- **画像を確認してからの初期化をおすすめします。**
- **初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。**
- **オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。**
- **カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。**

CAMEDIA

4

プリントの設定をしましょう

- 記録されている画像をプリンタでプリントできます。
- DPOFシステム対応のプリントサービスを行っているお店などで、自動的にプリントできるように予約ができます。

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

プリントの設定について

スマートメディアに保存されている静止画像をプリントして楽しむことができます。
このカメラで撮影し、スマートメディアに保存されている画像をプリントするには次の方法があります。

1. カードに保存した画像にプリントする枚数や日付時刻を記憶させます。（カードプリント予約）
カードプリント予約したカードをDPOF対応プリンタに挿入すると、プリントの設定を行わなくても自動的に指定した画像がプリントされます。
DPOF対応のプリントサービスを行っているお店などにカードをお持ちになると、プリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。

2. オリンパスCAMEDIA P-330N/P-330プリンタを使うと、プリント予約した撮影画像の入ったスマートメディアをプリンタのカードスロットに差し込んで、簡単なボタン操作でプリントできます。
・詳しくは、プリンタの取扱い説明書をお読み下さい。

3. カメラのUSB 機能やパソコン接続キットを使った通信やフラッシュパス、スマートメディアアダプタを使ってパソコンに画像を取り込み、画像プリント可能なソフトウェアを使うことでパソコンに接続されているプリンタからプリントできます。
・プリントの方法は、それぞれのソフトウェアの取扱い説明書をお読み下さい。

DPOFについて

DPOF(Digital Print Order Format)とは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマットのことです。
撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行なうことができます。

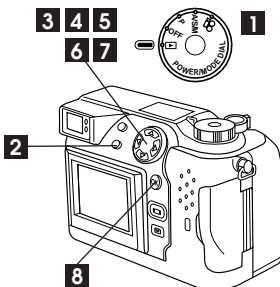
注意

- **他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。**
- **他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラであらたにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されることがあります。**
- **「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（ 凸 ）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（ 凸 ）が表示され、プリント予約を確認できます。**
- **オリンパス製デジタルプリンタP-300 など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタではプリントできません。**
- **プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。**

プリント予約

スマートメディアに保存されている画像に、プリントしたい画像の予約情報を記憶させます。これをプリント予約といいます。プリント予約は、DPOF対応のプリンタやラボでのプリントに有効です。

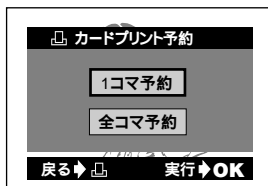
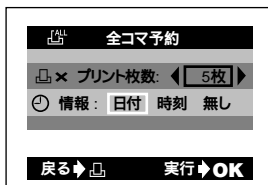
全コマプリント予約

カード内に保存されている全ての画像をプリントするという指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタ又はラボで自動的に全画像を設定枚数プリントすることができます。

操作方法

1 モードダイヤルを「▶」にセットします。

2 プリントボタンを押すと、プリント予約選択画面が表示されます。
カードに保存されている画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。（P. 171）

3 十字ボタンで「全コマ予約」を選択してOKボタンを押します。
プリント枚数と情報プリントの設定画面が表示されます。

4 十字ボタンの△▽を押して、プリント枚数を選択します。

5 十字ボタンの ◁ ▷ を押して枚数の設定をします。

◁ を押すと枚数は少なくなり、▷ を押すと枚数は多くなります。

枚数は0 枚から10枚の間で設定できます。

6 十字ボタンの △ ▽ を押して「情報」を選択します。

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「日付」か「時刻」の選択をします。

8 設定が終了したらOKボタンを押します。

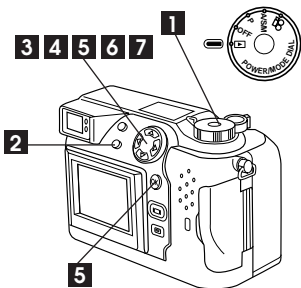
メニュー画面が消えて再生画像が表示されます。画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **P-330N/P-330で印刷する場合、カード内に記録された256枚目以降の画像はプリントできません。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

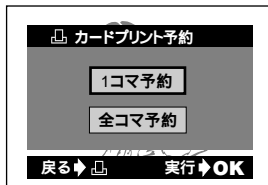
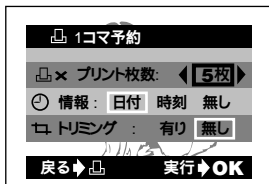
プリント予約（つづき）

1コマプリント予約

カード内に保存されている画像から選択したコマを、プリントする指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタ又はラボで自動的に選択画像を設定枚数プリントすることができます。

操作方法

1 **モードダイヤルを「▶」セットして、静止画を表示させます。**

2 **プリントボタンを押すと、プリント予約選択画面が表示されます。**
再生しているカードの画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。（P. 171）

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「1コマ予約」を選択してOKボタンを押します。**
プリント予約する画像を選択するモードに変わります。
ズームレバーをT側に回すと、トリミングプリントの設定（P. 169）の設定が出来ます。

予約画像選択画面

4 十字ボタンの△▽◁▷を押して、プリント予約したい画像を表示させます。

◁：1コマ前の画像を表示します。
▷：1コマ次の画像を表示します。
△：10コマ前の画像を表示します。
▽：10コマ次の画像を表示します。

ズームレバーをW側に回すとインデックス再生で画像を選択できます。

◁：1コマ前へ移動します。
▷：1コマ次へ移動します。
△：前のページを表示します。
▽：次のページを表示します。

インデックス表示の時はインデックスプレイの表示コマ数の設定が、4コマの時は2コマ、9コマの時は6コマ、16コマの時は12コマで表示されます。

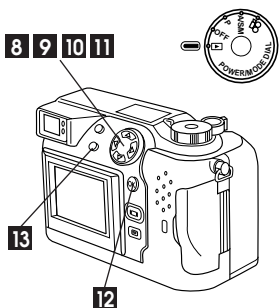
5 OKボタンを押すと1コマ予約の設定メニューが表示されます。

6 十字ボタンの△▽を押して「プリント枚数」を選択します。

7 十字ボタンの◁▷を押して枚数の設定をします。

◁を押すと枚数は少なくなり、▷を押すと枚数は多くなります。枚数は0枚から10枚の間で設定できます。

選択している画像にすでにプリント枚数が設定されている場合は、設定画面が表示されたときにその枚数を表示します。

プリント予約（つづき）

8 十字ボタンの △ ▽ を押して、「情報」を選択します。

9 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「日付」か「時刻」の選択をします。

10 十字ボタンの △ ▽ を押して、「トリミング」を選択します。

11 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「有り」か「無し」の選択をします。

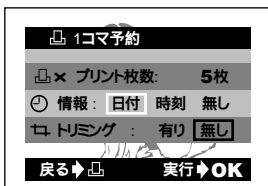
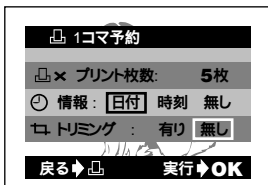
トリミングが設定されてないときは「有り」は選択できません。

トリミングの設定は、トリミングプリント予約をご覧ください。（P. 169参照）

12 設定が終了したらOKボタンを押します。

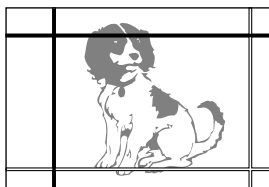
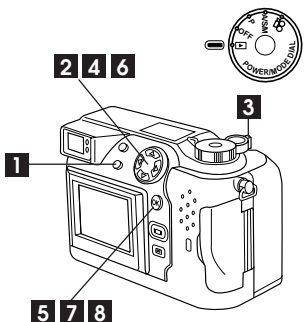
メニュー画面が消えて再生画像が表示されます。画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

続けて他の画像をプリント予約するときは、4から12を繰り返します。

13 プリントボタンを押すと、プリント予約モードから抜け再生モードに戻ります。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **P-330N/P-330で印刷する場合、カード内に記録された256枚目以降の画像はプリントできません。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

トリミングプリント予約

撮影した画像の一部を拡大してプリントできます。

トリミングモード画面

操作方法

1 **カード予約画面から1コマ予約を選択し、OKボタンを押します。予約画像選択画面が表示されます。（P. 166参照）**

2 **十字ボタンの △ ▽ ◁ ▷ を押してプリント予約したい画像を表示させます。**

◁：1コマ前の画像を表示します。

▷：1コマ次の画像を表示します。

△：10コマ前の画像を表示します。

▽：10コマ次の画像を表示します。

3 **ズームレバーをT側に回すと、トリミングモードの画面が表示されます。**

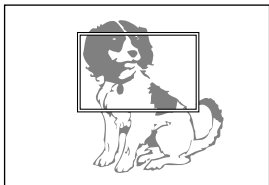
選択されているカーソルは、緑色で表示されます。

4 **カーソルを移動してプリントしたい画像の左上の位置を設定します。**

十字ボタンの △ ▽ を押して上下、◁ ▷ を押して左右に移動します。

ズームレバーをW側に回すと左上端へ、T側に回すと右下端へ移動できます。

5 **位置が決まったらOKボタンを押します。**

プリント予約（つづき）

（1秒間表示します）

（設定すると枠付きの画面を1秒表示して、戻る/予約設定の画面に切り替わります）

6 カーソルを移動してプリントしたい画像の右下端を設定します。

左上のカーソル位置を設定したのと同様な手順で右下のカーソル位置を設定します。

十字ボタンの △ ▽ を押して上下、△ ▽ を押して左右に移動します。

ズームレバーW側に回すと左上端へ、T側に回すと右下端へ移動できます。

プリントボタンを押すと左上のカーソル位置を設定する画面に戻ります。

7 OKボタンを押すとトリミングサイズが設定されて、液晶画面に表示されます。

8 もう一度OKボタンを押すと1コマプリント予約の画面が表示されます。

1コマプリント予約の手順で「プリント枚数」「情報」「トリミング」を設定します。（P. 166）

続けて他の画像のトリミングプリント予約するときは、1から8を繰り返します。

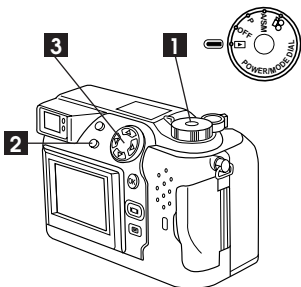
メモ

- **プリントされる画像の大きさはプリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントされる画像は粗くなります。**

注意

- **詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQ 、またはHQモードでの撮影をおすすめします。**
- **トリミング画面の縦横比は十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。**

予約の解除

カード内に保存されている画像のプリント予約設定を全て解除します。

操作方法

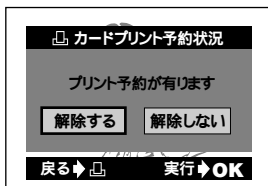
1 **モードダイヤルを「▶」にセットして、静止画を表示させます。**

2 **プリントボタンを押すと、プリント予約状況確認画面が表示されます。**

再生しているカードの画像に、プリント予約したコマがない場合は、予約設定解除の選択画面は表示されません。

3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して「解除する」を選択してOKボタンを押します。**

解除をやめるときは、「解除しない」を選択してOKボタンを押します。

選択した画像のみの予約の解除は、1コマプリント予約の中のプリント枚数の設定を0に設定して下さい。

プリントの設定をしましょう

注意 **・「解除する」を選択するとカード内のすべての画像のプリント予約が解除されます。**

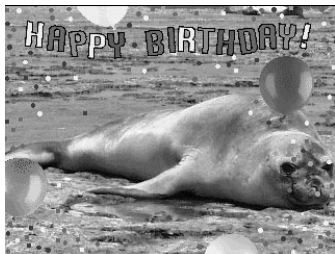
CAMEDIA

5

パソコンで撮影画像を加工しましょう

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

撮影した画像をパソコンで加工する

市販されている画像処理ソフトを使って、撮影した写真をパソコン上で加工する方法などを紹介します。
ここでは、パソコンとの接続方法と、別売のCAMEDIA Masterを使った加工方法を紹介します。

- **このカメラで撮影した画像（静止画及び動画）をパソコンで楽しむには、CAMEDIA Master 2.0 以上をお使いください。**
- **動画をみるためにはQuickTimeがインストールされている必要があります。パソコンと接続する前に、CAMEDIA Master（別売）をインストールしてください。インストール方法については、ソフトのインストールマニュアルをお読みください。**

パソコンとの接続のしかた

パソコン（DOS/V機、NEC-PC9821シリーズ、Apple Macintosh）とカメラを接続します。
このカメラは、2つの外部通信端子をもっています。
ご使用のコンピュータがUSBインターフェイスをもつWindows 98/2000またはMacintoshの場合は、USBケーブルとCAMEDIA Masterで通信することができます。
USB機能のないWindows 95/Windows NT4.0またはMacintoshコンピューターをご使用の場合は、シリアル接続ケーブルを使って接続してください。

パソコンの使用環境

パソコンに接続してお使いになる場合は、お持ちのパソコンをご確認のうえ次の条件でご使用ください。
パソコンと直接接続するには、シリアルポートかUSBインターフェイスのどちらかが必要です。

●Windows版

CPU	：Pentium 以上
OS	：Windows 98/98 Second Edition/2000 Professional（USB接続） ：Windows 95/98/98 Second Edition/2000 Professional/NT4.0SP3以上（シリアル接続）
ハードディスクの空き容量	：30MB 以上（標準インストール時）
メモリ	：32MB以上（推奨64MB以上）
コネクタ	：USBインターフェイス(USB接続） D-SUB 9ピンコネクタ（DOS/V機用） D-SUB25ピンコネクタ (NEC PC98シリーズ用）
モニタ	：256色以上 800 X 600ドット以上 （推奨32000色以上）

注意
- **コンピューターがUSBポートを備えていても次の環境でのUSB接続はサポート対象外となります。**
  Windows 95からWindows 98にアップグレードしたコンピュータ
  Windows 95
  Windows NT4.0

パソコンとの接続のしかた（つづき）

●Macintosh版

CPU	：PowerPC 以上
OS	：Mac OS 8.6～9 (USB接続） Mac OS 7.6.1～9 (シリアル接続）
ハードディスクの空き容量	：30MB 以上（標準インストール時）
メモリ	：32MB以上 (アプリケーション割当8MB以上）
コネクタ	：USBポート(USB接続） シリアルポート（シリアル接続）
モニタ	：256色以上　800 X 600ドット以上 （推奨32000色以上）

USB接続する場合、USBポートを標準搭載したMacintoshでのみ使用できます。

- **音声の再生・録音にはサウンドカード及びマイクが必要です。動画に対応するためにQuickTime 4.0のインストールが必要です。**
- **詳しくはCAMEDIA Master のオンラインマニュアルを参照してください。**

- **USBケーブルを使って接続する場合は、お使いのパソコンでUSBの動作が保証されていることをご確認ください。パソコンの環境については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。**
- **USBケーブルだけでは、パソコンと通信することはできません。必ずCAMEDIA Masterを使用して画像の読み込みを行ってください。**
- **USB接続をご使用の場合は、パソコン側でUSB機能が正常に動作していることをご確認ください。パソコン側でのUSB機能の確認は、パソコンの取扱説明書で確認してください。**

接続手順

パソコン（DOS/V機、NEC PC-9821シリーズ、Apple Macintosh）とカメラを接続します。

1 接続キットに添付されているCAMEDIA Masterを、あらかじめお持ちのパソコンにインストールしておきます。

インストール方法についてはオンラインマニュアルを参照してください。

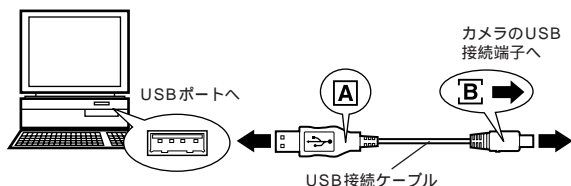
2 パソコンとカメラの電源が切れていることを確認してください。

3 パソコンにケーブルを接続します。

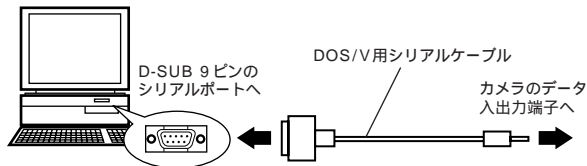
ご使用になるケーブルによって接続方法が異なります。

USBポートによる接続の場合

（DOS/V機、NEC-PC9821シリーズ、Apple Macintosh）

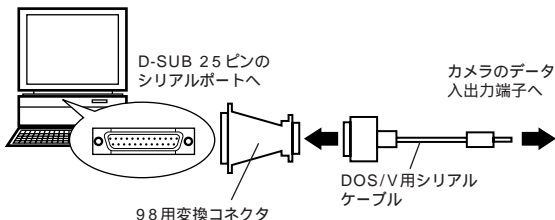
パソコン側のUSBポートにUSBケーブルを差し込みます。

シリアルポートによる接続の場合

（DOS/V機）

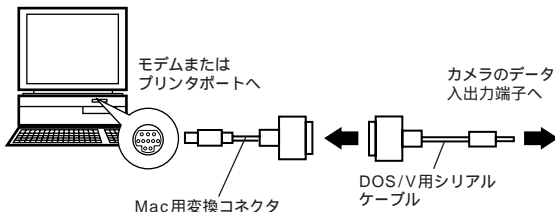
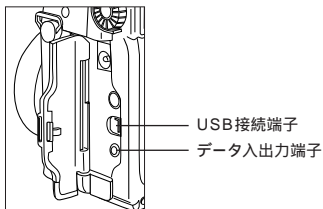
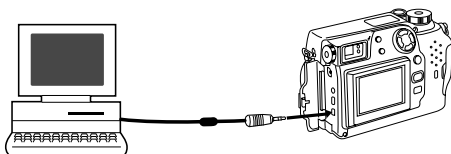
パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、シリアルケーブルを差し込みます。

パソコンとの接続のしかた（つづき）

（NEC PC-9821シリーズの場合）

パソコン側の「RS-232C」と書かれたシリアルポートに、98用変換コネクタを差し込みます。

シリアルポートに差し込まれている98用変換コネクタに、DOS/V用シリアルケーブルを差し込みます。

（Apple Macintoshシリーズの場合）

パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換コネクタを接続します。

Macintosh用変換コネクタに、DOS/V用シリアルケーブルを差し込みます。

注意
- **PC-98ノートパソコン（14ピンの場合）には、別売の変換コネクタ（PC-9821N-K04）が必要です。**

4 **カメラのレンズキャップを外します。**

5 **パソコン接続ケーブルのプラグをカメラのUSB接続端子又はデータ入出力端子に差し込みます。**

6 **パソコンの電源を入れます。**

7 **カメラのモードダイヤルを「 ▶ 」にセットします。**

8 **CAMEDIA Masterを起動します。**

注意
- カメラの電源が入っている状態でパソコンと接続すると、カメラが正しく作動しない場合があります。パソコンと接続する時は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。
- テレビに接続している時、通信はできません。
- 電池の消耗を防ぐため、ACアダプタ C-6AC/C-7AC(別売)の使用をおすすめします。

撮影した画像をパソコンに読み込む

CAMEDIA Masterで読み込む

別売のCAMEDIA Masterをパソコンにインストールすると、撮影した写真をパソコンに読み込み、表示、加工、保存などを行うことができます。操作方法については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。

カメラとの通信

USB、又はシリアルの接続で、カメラ内画像ファイル（静止画、動画）のダウンロードを行います。また、カメラの各種設定(プロテクト設定・解除、データ消去、日付時刻の設定、その他設定変更等)もサポートしています。

画像ビューワー

カメラからダウンロードした画像、ディスク上の画像ファイルのインデックス表示、単画面表示を行います。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で、画像の管理が簡単に行えます。更に動画の再生や静止画及び動画のスライドショー(自動再生)もできます。動画の任意のフレームからの切り出しもできます。

一括処理

インデックスウィンドウから画像の回転、フォーマット変換、リネーム等の一括処理が可能です。

加工

回転（右９０度、左９０度、１８０度、任意角度)、色数変更、リサイズ、テキスト挿入、各種フィルター処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネス等）が可能です。

カメラ連携機能

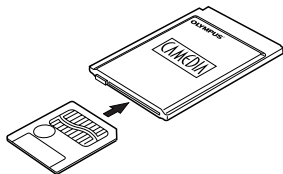
「パノラマ合成」　　　標準カードのパノラマモードで撮影した画像を使用して、パノラマ合成画像が作成できます。

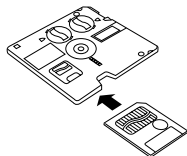
「テンプレート合成」　別売のテンプレートカードに、カメラで合成可能なオリジナルテンプレート画像をアップロードできます。

印刷

単画像印刷の他、単画像日付入り印刷、分割シール紙への印刷を行います。

スマートメディア用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコンでは、別売のPCカードアダプタ（MA-2）を使うとスマートメディアから直接画像を読み込むことができます。

フロッピーディスクアダプタを使って読み込む

3.5インチフロッピーディスクドライブのあるパソコンでは、別売のフロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2/MAFP-2N）を使うと、直接スマートメディアから画像を読み込むことができます。

スマートメディア・リーダ/ライタを使って読み込む

Windows98およびMacintosh OS 8.6のUSB対応パソコンでは、別売のスマートメディア・リーダ/ライタ(MAUSB-2)を使うと、データの転送を簡単かつ高速に行うことができます。

注意
- **パソコンの動作環境やスマートメディアの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。**
- **ライトプロテクト(書き込み禁止)シールの貼ってあるカードをパソコンで使用するとエラーが多発しますので、ご使用にならないでください。(詳しくは両アダプタの取扱説明書をお読みください。)**

撮影した画像をパソコン上で見る

撮影した画像をパソコンの上で見るには、CAMEDIA Masterを使います。

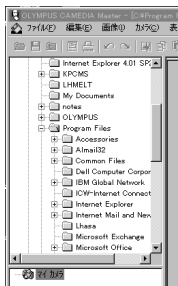
カードに保存されている画像を見る

カメラに挿入されているスマートメディアに保存されている画像を、CAMEDIA Masterで見ることができます。

操作方法

1 **パソコンにインストールしたCAMEDIA Masterを起動します。**

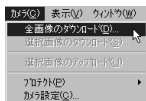
2 **[マイ　カメラ]アイコンをクリックします。**

3 **保存されている画像が一覧で表示されます。**

4 見たい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。

選択した画像が拡大して表示されます。

カードに保存されている画像をパソコンに読み込む

カメラに挿入されているスマートメディアに保存されている画像を、パソコンに読み込みます。

操作方法

1 パソコンにインストールしたCAMEDIA Masterを起動します。

2 メニューバーの[カメラ(C)]で[全画像のダウンロード(D)]を選択します。

カメラからパソコンに画像が読み込まれます。

メモ **パソコンに読み込んだ画像は、添付のCAMEDIA Master以外にもJPEGを扱えるグラフィックソフト（Paint Shop Pro／Photoshopなど）、インターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）などのアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。詳しくは対応ソフトのマニュアルを参照してください。**

撮影した画像をパソコン上で加工する

CAMEDIA Masterでは、画像の色調はもちろんのこと画像を合成したりすることができます。
ここではCAMEDIA Masterを使った加工方法の一部を紹介しますが、それぞれのアプリケーションソフトの機能でいろいろな加工方法をお楽しみください。

暗い画像を明るくする

撮影した画像を見ると、思っていたよりも暗いことがあります。撮影直後であれば再度撮影することも可能かもしれませんが、シャッターチャンスを逃すこともあります。
そんな時にはCAMEDIA Masterのワンタッチ補正を使うと、簡単に画像を明るくできます。

操作方法

1 明るくしたい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

2 メニューバーの[画像(I)]→[ワンタッチ補正(I)]を選択します。

選択した画像が明るくなります。

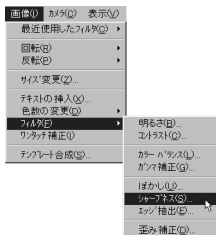
ボケている画像を修正する

逆光などで画像全体がはっきりしない場合や被写体にピントを合わせて撮影したため、手前の物体がボケてしまう場合があります。画像を見て、「失敗」と思う前にCAMEDIA Masterのシャープネスを使ってみましょう。画像を全体的にシャープにして、ボケを和らげることができます。ただし、完全にボケを取り除くことはできません。

パソコンで撮影画像を加工しましょう

撮影した画像をパソコン上で加工する（つづき）

操作方法

1 加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

2 メニューバーの[画像(I)]→[フィルタ(F)]→[シャープネス(S)]を選択します。

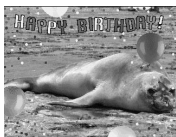
3 オリジナルと変更後を見ながら、シャープの度合をスライドバーを動かして指定するか、数値を1～9で入力します。

4 加工結果が良ければ、[OK]ボタンを押します。

選択した画像がシャープになって表示されます。

テンプレートと合成する

撮影した画像をCAMEDIA Masterに収録されているテンプレートと合成することで、簡単にシールプリントのような画像を作ることができます。

+
=
操作方法

1 加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

撮影した画像をパソコン上で加工する（つづき）

2 メニューバーの[画像(I)]→[テンプレート合成(S)]を選択します。

合成のウインドウが表示されます。

3 合成するテンプレートを選択し、[適用]ボタンを押します。
合成されたサンプル画像が表示されます。

4 表示された画像で良ければ、[OK]ボタンを押します。
合成された画像が表示されます。

以上の機能の他にも沢山の画像を加工する機能があります。CAMEDIA Masterの各機能については、CAMEDIA Masterのオンラインヘルプをご覧ください。

CAMEDIA

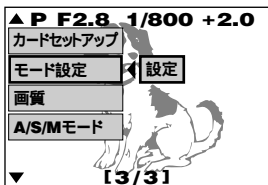
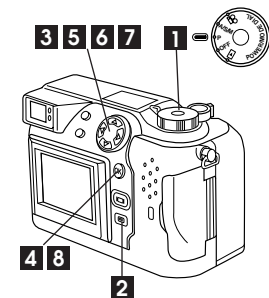
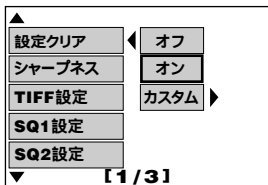
6

各種の設定をしましょう

● 各設定はメニューの中で行います。静止画撮影メニュー、静止画再生メニュー、動画撮影メニュー、動画再生メニューでは設定項目が異なりますので、ご注意ください。(P. 70/111/133/147参照)

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

設定クリア

「オフ」に設定すると、電源を切る直前の設定を保存できます。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1. **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」のどれかにセットします。**
2. **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**
3. **十字ボタンの△ ▽を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**
4. **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**
5. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「設定クリア」を選択します。**
6. **十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「オフ」か「オン」かを選択します。**

   「オン」を選択すると、電源を切った時に設定が解除されて初期設定に戻ります。

   「オフ」を選択すると、電源を切っても設定は解除されません。
7. **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**
8. **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

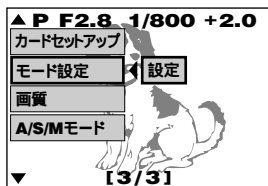
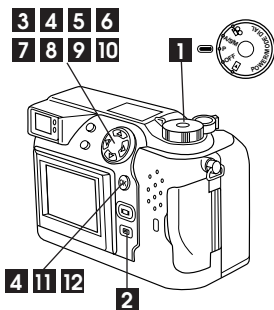
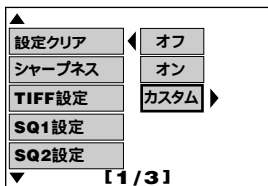
各種の設定をしましょう

「オン」を選択すると電源を切った時初期設定に戻る項目

絞り優先撮影 (P. 54)、
シャッター優先撮影 (P. 55)、
マニュアル撮影 (P. 57)、
ズーム位置 (P. 58/129)、
露出補正 (P. 59/130)、
フラッシュモード (P. 60)、
スポット測光モード (P. 64)、
マクロモード (P. 66)、
マクロ＋スポット測光モード (P. 67)、
マニュアルフォーカスモード (P. 68/131)、
連写モード (P. 71)、
セルフタイマー/リモコン (P. 73/134)、
オートブラケット (P. 77)、
ホワイトバランス (P. 79/138)、
ISO感度 (P. 81/140)、
フラッシュ発光量補正 (P. 83)、
スローシンクロ (P. 85)、
フラッシュ選択 (P. 89)、
デジタルズーム (P. 93)、
ファンクション撮影 (P. 95/142)、
録音モード (P. 96)、
画質モード (P. 102/145)、
A/S/Mモード設定 (P. 104)、
画像情報表示 (P. 113/150)、

注意　**・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

カスタムの設定

電源を切った時にお好みの設定に戻すことができます。撮影中に設定を変更しても、電源を入れなおした時にここで設定した状態に戻すことができます。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」のどれかにセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

5 **十字ボタンの△▽を押して、「設定クリア」を選択します。**

6 **十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「カスタム」を選択します。**

7 **もう一度十字ボタンの▷を押すと、カスタム設定の画面が表示されます。**

8 **十字ボタンの△▽を押して、設定したいモードを選択します。**
設定を選べるモードは表のとおりです。

注意　**・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

9 **十字ボタンの ▷ を押してから △ ▽ を押して、設定したい値またはモードを選択します。**

10 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**
他にも変更したいモードがあれば、7、8、9を繰り返して設定します。

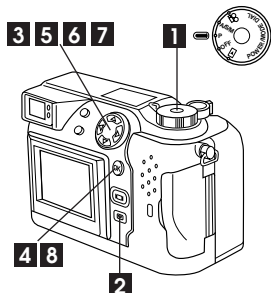
11 **OKボタンを押すとカスタム設定モードから抜け、モード設定画面に戻ります。**

12 **「カスタム」に設定されたことを確認します。OKボタンを押すと、モード設定画面から抜け、再度押すとメニューモードから抜けます。「カスタム」以外を選択してもカスタム設定で設定された状態は保存されています。**

「カスタム」で好みの状態を設定できる項目

項目	設定
フラッシュ	「オート」「赤目」「強制」「オフ」
スポット/マクロ	「オフ」「スポット」「マクロ」「スポット＋マクロ」
ズーム位置	「32mm」「50mm」「70mm」「96mm」
絞り値	「F2.8」～「F11」
シャッタ速度	「1/800」～「16」
露出補正	1/3EV刻みで±2EVまで
MF	「AF」「MF」
モニタ（P）	「オフ」「オン」
ドライブ	「単写」「連写」「AF連写」「セルフタイマー/リモコン」「オートブラケット」
ホワイトバランス	「オート」「晴天」「曇天」「電球」「蛍光灯」
ISO感度	「オート」「100」「200」「400」
フラッシュ露出補正	1/3EV刻みで±2EVまで
スローシンクロ	「オフ」「先幕」「後幕」
フラッシュ選択	「内部＋外部」「外部」
デジタルズーム	「オフ」「オン」
ファンクション撮影	「オフ」「モノクロ」「セピア」「白板」「黒板」
録音モード	「オフ」「オン」
スチル画質モード	「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ1」「SQ2」
マニュアルモード	「A」「S」「M」
ムービー画質モード	「HQ」「SQ」
画面情報表示	「オフ」「オン」

シャープネス（鮮鋭度）

シャープネス（鮮鋭度）を設定します。「標準」は画像の輪郭がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「ソフト」は画像の輪郭がソフトです。加工するときなどに適しています。「ハード」は輪郭がより強調され、画像が鮮やかに見えます。状況に応じて使い分けてください。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「 」のどれかにセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

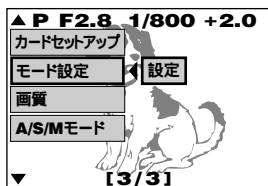
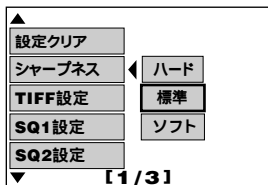
3 **十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

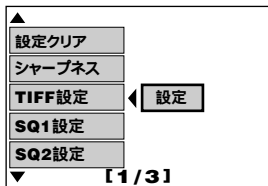
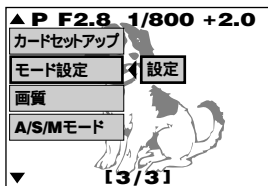
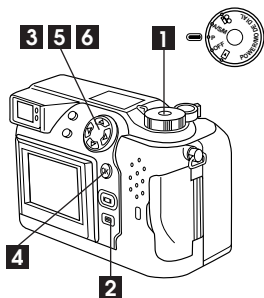
5 **十字ボタンの△▽を押して、「シャープネス」を選択します。**

6 **十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「標準」か「ソフト」か「ハード」を選択します。**

7 **十字ボタンの◁を押して設定を確認します。**

8 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

注意　**・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

TIFFの設定

画質モードTIFFの記録サイズを設定します。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。

4 OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。

5 十字ボタンの△▽を押して、「TIFF設定」を選択して▷を押します。

6 OKボタンを押すと記録サイズ設定画面が表示されます。

TIFFの設定（つづき）

7 **十字ボタンの △ ▽ を押して記録サイズを選択します。**

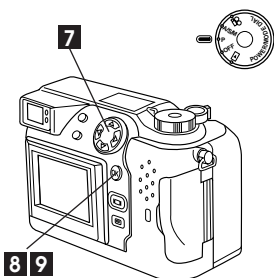
記録サイズは、「2048×1536」「1600×1200」「1280×960」「1024×768」「640×480」の中から選びます。
圧縮率は全て非圧縮のTIFFになります。

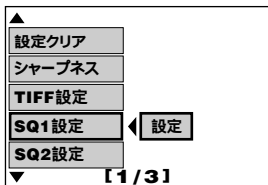
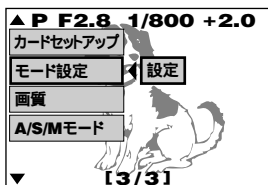
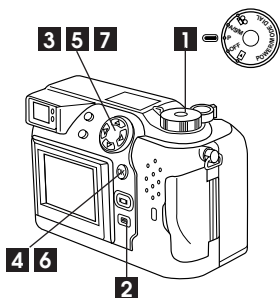
8 **OKボタンを押すと設定され、モード設定画面に戻ります。**

設定を確認します。

9 **OK ボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **画素数が大きくなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。（P. 38/39参照）**

SQ1、SQ2 の設定

画質でSQ1またはSQ2を選択した場合の画像の画質や記録サイズを設定します。「標準」を選択するとカードにより多くの写真を保存できます。「高画質」を選ぶとJPEG圧縮特有のノイズを抑えることができます。

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

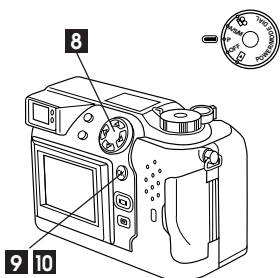
3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

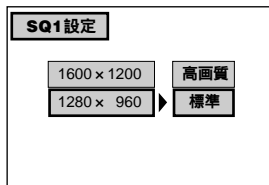
5 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「SQ1設定」または「SQ2設定」を選択し、▷ を押します。**

6 **OKボタンを押すと記録サイズ設定画面が表示されます。**

7 **十字ボタンの △ ▽ を押して記録サイズを選択します。**
選べる記録サイズは次の表のとおりです。

SQ1、SQ2 の設定（つづき）

8 十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「高画質」か「標準」を選択します。

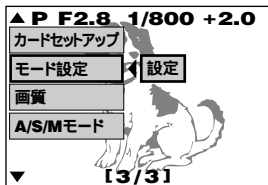
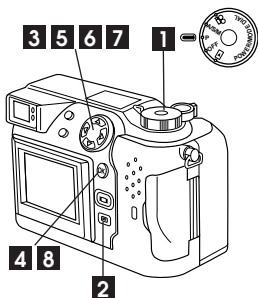
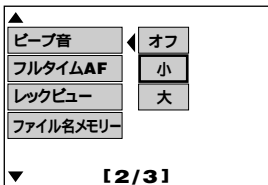
9 OKボタンを押すと設定され、モード設定画面に戻ります。
設定を確認します。

10 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

画質モード

画　質		記録サイズ	ファイル形式
SQ 1	高画質	1600×1200	JPEG
	標　準		
	高画質	1280×960	
	標　準		
SQ 2	高画質	1024×768	
	標　準		
	高画質	640×480	
	標　準		

・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。
・画質が良くなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。（P. 38/39参照）

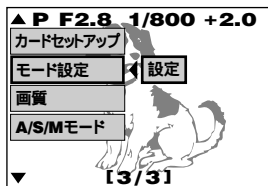
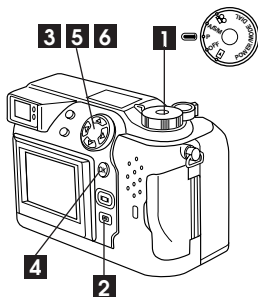
ビープ音の設定

警告音などのビープ音の大きさと、それを鳴らすか鳴らさないかを設定します。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1. モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」「▶」のどれかにセットします。
2. メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。
3. 十字ボタンの△ ▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。
4. OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。
5. 十字ボタンの△ ▽を押して、「ビープ音」を選択します。
6. 十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「オフ」、「小」、「大」の中から選択します。
7. 十字ボタンの◁を押して設定を確認します。
8. OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

注意 ・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

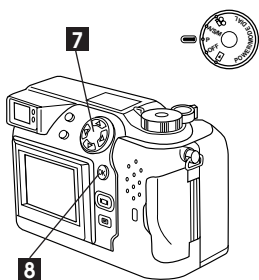
フルタイムAF

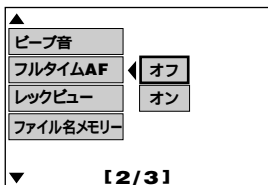
シャッターボタンを操作していないときも、カメラが常にレンズの前のものにピントを合わせる動作を繰り返します。「フルタイムAF」に設定していると、液晶モニタに表示している撮影画像は、いつもピントが合った状態で見えます。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

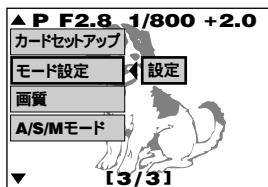
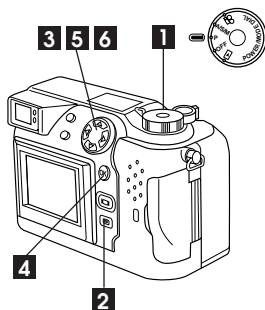
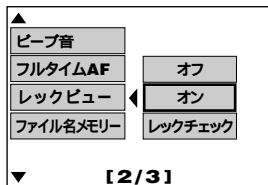
1. モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。
2. メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。
3. 十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。
4. OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。
5. 十字ボタンの△▽を押して、「フルタイムAF」を選択します。
6. 十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「オン」か「オフ」を選択します。

   「オン」：カメラが撮影モードに設定されているときは、常に自動的にピントを合わせる動作を繰り返します。

   「オフ」：シャッターボタンを半押しするまで、カメラはピントを合わせません。

7 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

8 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

注意
- **フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。**
- **液晶モニタを点灯させていないときは、フルタイムAFは動作していません。液晶モニタを点灯させてご使用ください。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

レックビュー

レックビューは、撮影後の記録画像をモニタに出すか出さないかを設定します。また、レックチェックで撮影後にカードに記録する前に撮影画像を確認し、記録するか消去するかを選択することができます。

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」のどれかにセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

5 **十字ボタンの△▽を押して、「レックビュー」を選択します。**

6 **十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「オン」「オフ」「レックチェック」を選択します。**

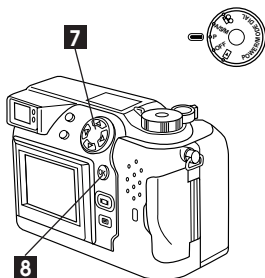
「オフ」にすると記録中モニタ表示が出ません。

「オン」にすると記録中モニタ表示が出ます。

「レックチェック」にすると撮影後すぐに撮影画像が表示され、カード記録するかやめるかの選択確認画面が表示されます。

各種の設定をしましょう

静止画撮影モードのレックチェック確認画面

動画撮影モードのレックチェック確認画面

7 十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。

8 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

9 レックチェックを選択した場合、撮影終了後に撮影画像を保存するか消去するかの確認画面が表示されます。

「 🎥 」モードの時は、メニューボタンを押すと動画再生して確認ができます。

バッファメモリに複数枚の画像がある場合は、十字ボタンでの画像の選択やズームレバーでの拡大表示、インデックス表示を行って画像の選択ができます。

◁：1 コマ前の画像を表示します。

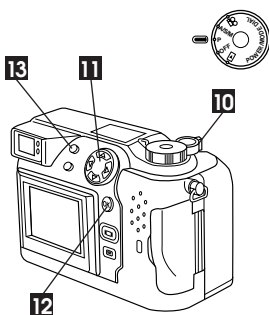
▷ ：次の画像を表示します。

△：先頭コマを表示します。

▽：最終コマを表示します。

・レックチェックは、TIFF モードではできません。

・オートブラケット撮影された画像がバッファ内にあるとき、もっとも暗い画像がまず最初に再生されます。 ◁ボタンを押すとその次に暗い画像が再生されます。

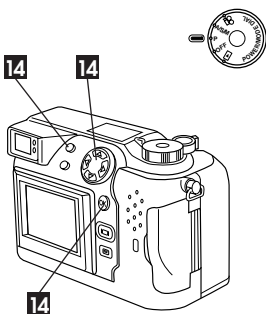
レックビュー（つづき）

10 ズームレバーをT側に廻すと拡大表示、W側に廻すとインデックス表示をします。

オートブラケット撮影時のレックチェックでは、インデックス表示のしかたが通常撮影時とは異なります。（P. 206）

11 十字ボタンで画像を選択します。

12 保存するときは、OKボタンを押します。画面に表示されている画像が、カードに記録されます。バッファに画像がある場合は、次の画像が表示されます。

静止画撮影モードで録音モードをオンにしているときは、保存を選択してOKボタンを押した後に、録音が始まります。録音完了後にカード記録が始まります。

13 記録しないときは、消去ボタンを押します。1コマ消去と同じ画面が表示されます。

14 十字ボタンの◁ ▷ を押して「実行」を選択し、OKボタンを押すと表示中の画像が消去され、次の画像が表示されます。中止するときは、消去ボタンを押すか、「中止」を選択してOKボタンを押すと、レックチェック確認画面に戻ります。

レックチェックの画像を残したままカメラの電源をOFFにすると、残りの画像は自動的に保存されます。

注意

- **動画撮影モードおよびオートブラケット撮影では、保存か消去かを決定するまで次の撮影はできません。**
- **TIFFモード設定中にレックチェックを設定すると、画質モードが変わります。TIFFモードではレックチェックを設定しないでください。（同じ記録サイズの高画質のモードに切り換わります。）**
- **レックチェック確認中でも撮影はできます。シャッターボタンを半押しにすると、液晶モニタの表示が切り換わり、フォーカスロックした画像が表示されます。**
  一度撮影画面に切り換わった後、約5秒でレックチェックの画面に戻ります。
- **レックチェック確認中は、「P」と「A/S/M」モードの間ではモード切換えができます。 🎥 との間で切換えを行うと、バッファ内の全画像は自動的に保存されます。**
- **「レックチェック」確認中の静止画撮影では、撮影メニューの以下の項目の選択や変更はできません。「ドライブ」、「録音モード」、「機能カード」、「カードセットアップ」、「モード設定」**
- **レックチェック中は絶対にカードを抜いたり、電池を交換したりしないでください。バッファ内のデータが全て失われてしまいます。**
- **レックチェック確認中は、メニュー画面を表示させることはできません。チェックを終了してから操作してください。**
- **電源を切っても設定は変更するまで保存されます。**

レックビュー（つづき）

撮影した画像がオートブラケット撮影によるときは、バッファ内に通常撮影の画像があるかどうかで、インデックス表示のしかたが変わります。

インデックス表示（オートブラケットの場合）

オートブラケット撮影の場合は、インデックス表示するとすべての画像が表示されます。

インデックス表示（通常撮影時）

十字ボタンで画像を選択して保存するときは、OKボタンを押します。
消去するときは、消去ボタンを押して、前ページ　**14**　の操作をしてください。消去した画像が画面から消えます。

すべての画像で保存か消去かを選択して下さい。

オートブラケット画像のひとつを消去した場合

オートブラケット撮影設定が5枚の時

オートブラケットで撮影した画像は、左の図のような順序で表示されます。

注意

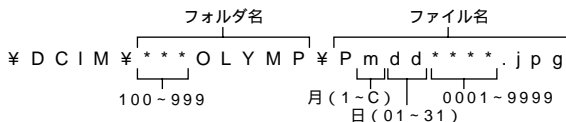
- **オートブラケット撮影が設定されているときは、レックチェック時に全ての画像を保存するか、消去するかの選択を終了しなければ、次の撮影に進むことはできません。**
- **レックビュー（P. 205)の注意をよくお読みください。**

ファイル名の設定

画像ファイル名の記憶方法を選択できます。「オート」にするとパソコンに画像を取り込んだ時にファイル名が重複せず、ファイル管理できます。

記録される画像のファイル名、フォルダ名はそれぞれファイルNo.:0001～9999、フォルダNo.:100～999の間でカメラ内部で自動的に生成されます。ここではそれぞれの設定を「リセット」と「オート」から選択できます。

フォルダ名、ファイル名について

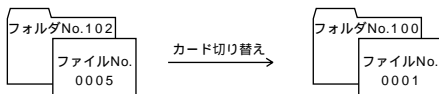
記録される画像にはフォルダ名、ファイル名が次のように付けられます。

※ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

各モードでのフォルダ名、ファイル名の付け方

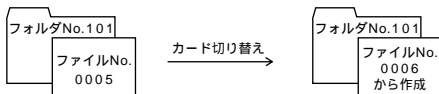
●リセット

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にリセットされます。

(例)

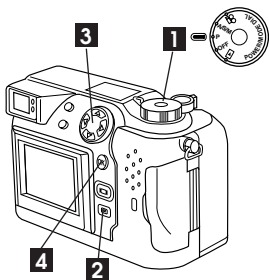
各種の設定をしましょう

●オート

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。

(例)

パソコンに画像単位でコピーするときに複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると0001に戻ります。

メモ
- **パソコンに画像をコピーした場合、コピー元のフォルダ名と、コピー先のフォルダ名は同じフォルダ名になり、管理がしやすくなります。**

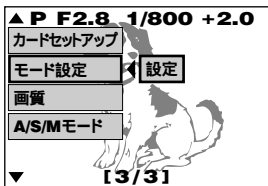
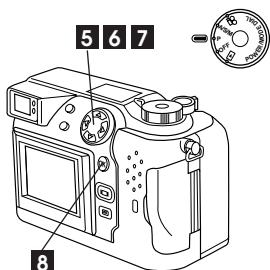
\DCIMY\XXXOLYMP\PmddXXXX.jpg

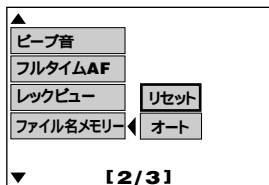
コピー元と同じフォルダ名になる。

操作方法

1 モードダイヤルを「P」または「A/S/M」にセットします。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。

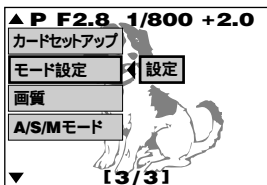
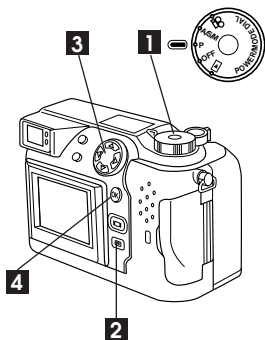
4 OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。

ファイル名の設定（つづき）

5 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「ファイル名メモリー」を選択します。**

6 **十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「リセット」か「オート」かを選択します。**
「リセット」を選択すると、カードを入れるたびにフォルダ名とファイル名がリセットされます。
「オート」を選択すると、カードを入れた時、フォルダ名は最後に使用したカードと同じものが、ファイル名は最後に使用したカードの末尾から続けて加算されるので、１度に撮影した数枚のカードのファイル名が重複しません。

7 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

8 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

注意
- **最終ファイル名よりも大きいファイル名を持つカードを入れた場合は、そのファイル名から続けて加算されます。**
- **最大ファイル名（9999）に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影はできません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

液晶モニタの明るさを設定

液晶モニタの明るさを調節できます。

（画面は静止画撮影メニューです）

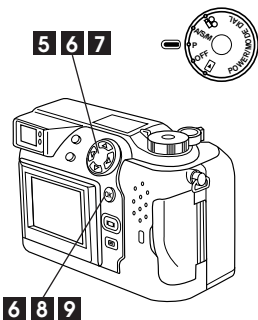
操作方法

1 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」「▶」のどれかにセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

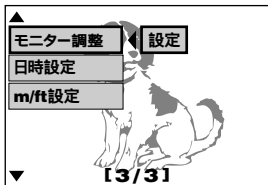
4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

液晶モニタの明るさを設定（つづき）

5 十字ボタンの △ ▽ を押して、「モニタ調整」を選択します。

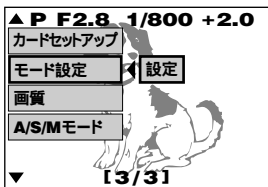
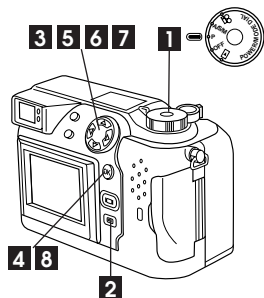
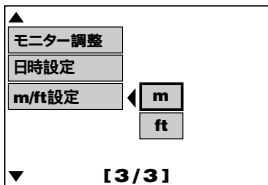
6 十字ボタンの▷ を押して「設定」を選択し、OKボタンを押すと、明るさ設定画面が表示されます。

7 十字ボタンの ◁ ▷ を押して明るさを設定します。

8 OKボタンを押して設定を確認します。

9 再度OKボタンを押すと設定され、また押すとメニューモードから抜けます。

注意　・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

長さ単位の設定

マニュアルフォーカスモードで液晶モニタに表示される長さの単位をメートル単位とフィート単位から選べます。（マクロモードではセンチ単位とインチ単位で切り替わります。）

（画面は静止画撮影メニューです）

操作方法

1 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「 」のどれかにセットします。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。**

5 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「m/ft設定」を選択します。**

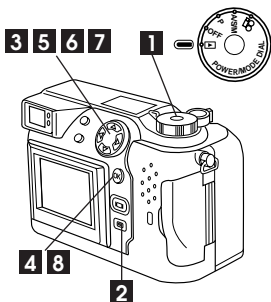
6 **十字ボタンの▷ を押してから △ ▽ を押して、「m（メートル単位）」か「ft（フィート単位）」かを選択します。**

7 **十字ボタンの ◁ を押して設定を確認します。**

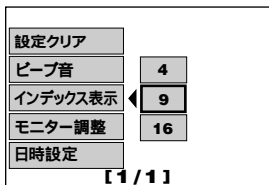
8 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

注意 **・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

インデックスディスプレイの表示コマ数設定

インデックスディスプレイモードでの表示コマ数を設定します。

（画面は静止画再生メニューです）

操作方法

1. モードダイヤルを「▶」にセットします。
2. メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。
3. 十字ボタンの△▽を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。
4. OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。
5. 十字ボタンの△▽を押して、「インデックス表示」を選択します。
6. 十字ボタンの▷を押してから△▽を押して、「4」、「9」、「16」の中から選択します。
7. 十字ボタンの◁を押して設定を確認します。
8. OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

注意
- カードに画像が記録されていないと、メニューボタンを押してもメニュー画面は表示されません。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

CAMEDIA

7

付録

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

Q & A

Q 電池はどの位もちますか。

A 同梱のリチウムパック電池（LB-01）での電池寿命は、次の表のようになります。ただし、電池寿命は電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。この値はあくまで参考値であり保証ではありません。

同梱リチウムパック電池CR-V3（LB-01）使用での電池寿命

	条件	撮影
撮影枚数	①	約400枚
再生時間	②	約360分

使用条件

①2枚連続撮影〜10分放置〜2枚連続撮影〜10分放置の繰り返し。（常温25℃）、フラッシュ発光50％、各撮影につきズーム1往復、フルタイムAFオフ、デジタルズームオフ、（再生、PCとの通信無し。）

②自動再生モードによる連続再生、オートパワーオフ直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

※PCとの通信はACアダプタ（C-6AC/C-7AC）のご使用をおすすめします。

※以下の条件では撮影をしなくても電力を消費しており、撮影可能枚数が減少することがあります。

- 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
- ズーム動作を繰り返す。
- フルタイムAFをオンしている。
- 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
- PCとの通信時。

Q 画像データに記録される日付が正しくないのですが。

A 出荷時には日付設定されておりませんので、撮影前に日付設定をしてください。(P.30) (別売のCAMEDIA Master を用いることで、パソコンからの設定もできます。)尚、カメラから電池を抜いて約1時間放置すると、設定は解除されます。

Q フィルターやフード、コンバージョンレンズは取り付けられますか。

A フィルター、フードは取り付けられません。コンバージョンレンズアダプタCLA-1（別売）を使用すれば、コンバージョンレンズは取り付けられます。(P. 223)

Q 外付けフラッシュは使用できますか。

A 専用フラッシュFL-40と専用グリップFL-BK01をお使いになると簡単にフラッシュ撮影ができます。また、市販の外部フラッシュもご使用になれます。詳しくは『市販の外部フラッシュを使って撮影する』（P.90）をご覧ください。

Q フラッシュを使用し、人物撮影をしたら目が赤く写ってしまったのですが。

A どのカメラでもフラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象ですが、個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます。（P.61）

Q カメラの保管はどうすれば良いのですか。

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんなときには		
カメラが動かない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①電源がOFFになっている。	❶モードダイヤルをOFF以外にセットして、電源をONにしてください。	P.32
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.24
③電池がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.24
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケット等で温めてから使用してください。	P.7
⑤パワーセーブ機構が働いた。	❺シャッターボタン又はズームレバーを操作してください。	P.32
⑥パソコンに接続している。	❻パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	P.179

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの充電が完了していない。または、カードに書き込み中である。	❶一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプ又は緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.44 P.60
②カードに問題がある。	❷エラー表をご覧ください。	P.224
③カードの容量がいっぱいになった。	❸カードの交換を行うか、不要なコマの消去を行うか、画像をパソコンなどに転送し、全コマ消去を行ってください。	P.28 P 110 P.117 P.174～ P.181
④撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❹電池を新品と交換してください。	P.24
⑤電池残量が少なくなった。	❺電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.24

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
⑥バッファメモリが一杯になった。	❻メモリに空きができるまでお待ちください。	P.47 P.125
⑦カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❼新しいカードを入れて下さい。	P.28
⑧モードダイヤルが、「 ▶ 」にセットされている。	❽「P」、「A / S / M」、または「 🎥 」にセットしてください。	P.33

こんなときには		
フラッシュが発光しない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶フラッシュモードを切り替えてください。（連写モード及びパノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。）	P.60
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.60 P.62

こんなときには		
液晶モニタ上で再生ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①撮影モードになっている。	❶モードダイアルを「 ▶ 」にセットしてください。	P.105 P.148
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.105
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.224
④テレビに接続している。	❹テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.121

修理に出す前にお確かめください（つづき）

こんなときには		
液晶モニタが見にくい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①液晶モニタの輝度の設定が適切でない。	❶液晶モニタの輝度調節をしてください。	P.211
②太陽光の下である。	❷太陽の光を手などでさえぎってください。	
③液晶モニタが壊れている。	❸修理に出してください。	

こんなときには		
画像のプロテクト、１コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	P.117

こんなときには		
パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P.177～P.179
②カメラの電源がOFFになっている。	❷モードダイアルを「▶」にセットしてください。	P.179
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.24 P.26
④パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	❹パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを確認してください。	

付録

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(カメラぶれ)	❶カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.34 P.35
②ピントを合わせたいものが、オートフォーカスマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.49 P.127
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	
④使用しているモードが違っていた。	❹0.2～0.8m以内に被写体がある場合はマクロモードを使い、それ以上の場合は通常モードを使ってください。	P.53 P.66
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。またはリモコンをご使用ください。	P.73 P.134
⑥マニュアルフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	❻マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.68 P.131

こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.60
②高輝度の被写体に向かって撮影した。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.59 P.130

修理に出す前にお確かめください（つづき）

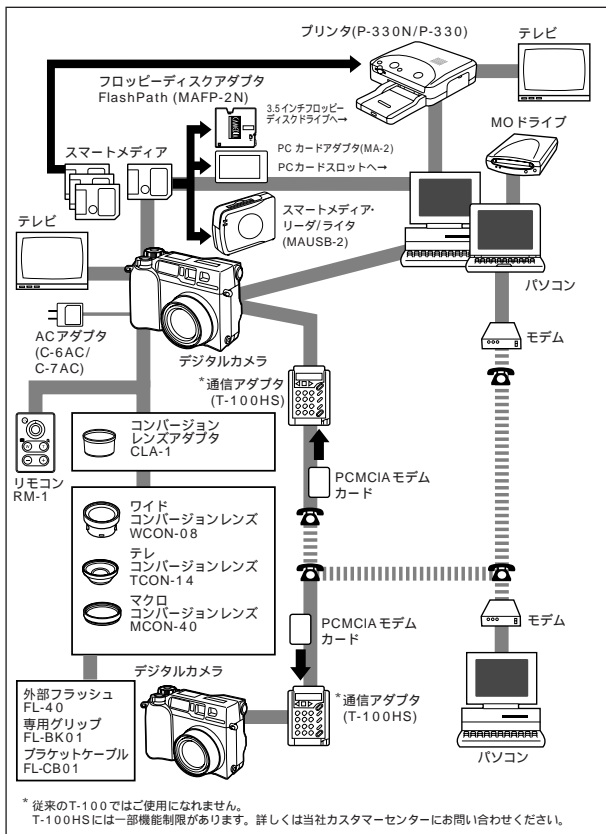
こんなときには		
できあがった画像が暗い。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.34
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。または外部フラッシュをご使用ください。	P.60 P.87
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸フラッシュのモードを確認してから撮影してください。	P.60
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュのモードを強制発光モードにセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P.60 P.64
⑤連写モードで撮影した。	❺シャッタースピードが早いために、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	

こんなときには		
室内で写した写真の色がおかしい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.60
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.79 P.138
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.79 P.138

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.34
②撮影距離が近かった。	❷液晶モニタを使ってください。	P.47 P.125

システムチャート

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。
●通信アダプタを介してデータの伝送、PCMCIA カードへのデータ保存

＊従来のT-100ではご使用になれません。
T-100HSには一部機能制限があります。詳しくは当社カスタマーセンターにお問い合わせください。

エラーコード表

このカメラでは各種の警告をエラーコードにて表示します。
（コントロールパネルの表示は点滅します。）

コントロールパネル	モニタ表示	エラー内容	対応
-0-	カードふたが開いています	カードふたが開いています。	カードを入れてカードふたを閉じて下さい。
---	カードを認識できません	カードが入ってません、または認識できません。	カードを入れて下さい。またはカードを入れなおして下さい。
0	撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去して下さい。
-P-	書込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがして下さい。
-E-	このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合はクリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか、カードをフォーマットして下さい。それでも直らない場合は、このカードは使用できません。
（表示なし）	この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は画像ファイルの一部が壊れています。

付録

コントロールパネル	モニタ表示	エラー内容	対応
-F-	（フォーマット画面）	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
000	画像が記録されていません	記録画像がないため画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れて下さい。
	カード残量がありません	カードに空き容量がなくプリントデータ又は音声を記録することができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。

付録

アフターサービスについて

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

●本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。

●本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。

別売品のご案内

●**パソコン接続キット（C-8KU）**
- CAMEDIA Master 2.0 (Macintosh、Windows 95/98/2000/NT4.0用)
- パソコン接続用USBケーブル (DOS/V、Macintosh、PC-98共用)

●**パソコン接続キット(C-8KP)**
- CAMEDIA Master2.0
- DOS/V用シリアルケーブル
- 98変換ケーブル
- MAC変換ケーブル

●**CAMEDIA Master 2.0 (C-80PJ2)**

●**スマートメディア(8MB/16MB/32MB/64MB)**

●**機能付スマートメディア**
- テンプレートカード (4MB/M-4T)
- カレンダーカード (4MB/M-4C)
- 手書きタイトルカード (4MB/M-4N)

●**専用外部フラッシュ (FL-40)**

●**専用グリップ(FL-BK01)**

●**専用ブラケットケーブル(FL-CB01)**

●**専用プリンタ (P-330N)**

●**ACアダプタ (C-7AC)**

●**ニッケル水素電池 (B-03NH16)**

●**ニッケル水素電池専用充電器 (BU-40SNH)**

●**PCカードアダプタ (MA-2)**
- 64MBスマートメディアまで対応

●**フロッピーディスクアダプタFlashPath (MAFP-2N)**
- 64MBスマートメディアまで対応
- DOS/V: Windows 95/98/NT4.0
- PC-9821: Windows 95(OSR2以降)/98
- Power Macintosh: Mac OS 8.6以前(Read only)

●**スマートメディア・リーダ／ライタ (MAUSB-2)**
- 64MBスマートメディアまで対応
- Windows 98、Mac OS 8.6用

画像ファイルの互換性について

このカメラで撮影した画像を他のオリンパスデジタルカメラで再生・印刷する場合及び他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合は、以下のような制限がありますのでご注意ください。

C-3000ZOOMで撮影
他のカメラで再生・印刷

他のカメラ	液晶モニタ再生	ダイレクトプリント(P-300/P-150接続時)
C-3030ZOOM	○	○
C-960ZOOM	○ 注1	×
C-860L	○ 注1, 注2	×
C-21T.commu	○ 注1	×
C-2020ZOOM	○ 注1	○
C-2500L	○ 注1	×
C-21	○	○
C-920ZOOM	○	○
C-2000ZOOM	○	○
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	×	×
C-830L	×	×
C-840L (D-340L)	×	×
C-820L (D-320L)	×	×
C-420L	×	×
C-1400XL	×	×
C-1400L	×	×
C-1000L	×	×

注1：画像サイズによっては、サムネイル再生のみになります。
注2：TIFFは再生できません。

付録

他のカメラで撮影
C-3000ZOOMで再生

他のカメラ	液晶モニタ再生
C-3030ZOOM	○
C-960ZOOM	○
C-860L	○
C-21T.commu	○
C-2020ZOOM	○
C-2500L	○ 注3
C-21	○
C-920ZOOM	○
C-2000ZOOM	○
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	○
C-830L	○
C-840L (D-340L)	○
C-820L (D-320L)	○
C-420L	○
C-1400XL	○
C-1400L	○
C-1000L	○

注3: SQモードで撮影した画像のみ再生できます。
また、クローズアップ再生はできません。

仕様

形式　：デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式
　静止画　：デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮/DPOF対応
　静止画音声　：Waveフォーマット準拠
　動画　：QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体　：3V（3.3V）スマートメディア2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
記録コマ数　：約0枚（TIFF: 2048 X 1536)
(8MBカード使用時)　：約 4枚 (SHQ)
：約 10枚 (HQ)
：約 24枚 (SQ1:1280 X 960標準)
：約 82枚 (SQ2: 640 X 480標準)
消去　：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子　：1/1.8型(インチ)CCD固体撮像素子
：334万画素(総画素数)
記録画素数　：2048×1536ピクセル（TIFF/SHQ/HQ）
：1600×1200ピクセル（TIFF/SQ1）
：1280×960ピクセル（TIFF/SQ1）
：1024×768ピクセル（TIFF/SQ2）
：640×480ピクセル（TIFF/SQ2）
ホワイトバランス　：フルオートTTL(iESPオート)、プリセット(晴天、曇天、電球、蛍光灯)
レンズ　：オリンパスレンズ 6.5～19.5mm、F2.8、6群8枚(35mmフィルム換算32～96mm相当)
測光方式　：撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
露出制御方式(撮影モード)
：プログラム自動露出、絞り優先自動露出、シャッター優先自動露出、マニュアル露出
　絞り　: W　：F2.8～F11.0
　T　：F2.8～F11.0
　シャッター　:メカニカルシャッター併用
　　静止画　：1 ～ 1/800秒
　　(マニュアル設定時は16 ～ 1/800秒)
　　動画　：1/30 ～ 1/10000秒

付録

撮影範囲　　　　：0.8m ～ ∞(通常モード)
0.2m ～ 0.8m(マクロモード)
ファインダー　　：光学実像式ファインダー(オートフォーカスマーク／逆光自動補正マーク)、液晶モニタ
液晶モニタ　　　：1.8型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)
モニタ画素数　　：約114,000画素
オンスクリーン表示：日付時刻、コマ番号、プロテクト、画質モード、電池残量、画像情報、プリント予約、メニュー設定、他
フラッシュ充電時間：約6秒(常温時、新品電池使用)
フラッシュ撮影範囲：W：約0.8m～3.8m
T：約0.2m～3.8m
フラッシュモード：オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、強制発光、発光禁止
コントロールパネル表示
：画質モード、撮影可能枚数、カード警告、フラッシュモード、フラッシュ露出補正、電池残量、連写、露出補正、スポット測光、マニュアルホワイトバランス、ISO感度、セルフタイマー／リモコン、マクロモード、スローシンクロ、オートブラケット、
カード書き込み、マニュアルフォーカス、外部フラッシュ、録音
オートフォーカス：TTL方式iESP AF
コントラスト検出方式／
焦点調節範囲：0.2m～∞
セルフタイマー　：作動時間約12秒
外部コネクタ　　：DC入力端子、データ入出力端子 (RS-232C)、AV出力端子 (NTSC方式)、
USB接続端子（USB1.0準拠）
外部フラッシュ接続端子
日付・時刻　　　：画像データに同時記録
自動カレンダー機能：2030年まで自動修正
カレンダー用電源：本体電源と共用
(内蔵キャパシタによるバックアップ付)

仕様（つづき）

カード機能(パノラマ以外は機能付スマートメディア使用)
：パノラマ合成、テンプレート合成、カレンダー合成、手書きタイトル合成

使用環境
温度 ：０〜４０℃(動作時)／－２０〜６０℃(保存時)
湿度 ：３０〜９０%(動作時)／１０〜９０%(保存時)

電源 ：電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用。
マンガン電池は使用できません。
AC アダプタ（別売）

大きさ ：幅109.5mm
高さ76.4mm
厚さ66.4mm(突起部含まず)

質量 ：３００g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌 011-231-2338
仙　台 022-218-8437
東　京(八王子) 0426-42-7499
名古屋 052-201-9585
大　阪 06-6252-0506
広　島 082-222-0808
福　岡 092-724-8215

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の技術提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

1AG6P0805 - -　　**VT1427**